

○甲第二十一號

明治十七年三月二十九日

寺院佛像ヲ他府縣ニ持出開帳セントスルハ該寺住職檀家惣代無檀家ノ寺院及本寺法類連署ノ上本山ノ添書ヲ以テ甲乙兩管廳へ出願スヘシ但寶物ハ持出ス事ヲ得ス右布達候事

○甲第九十三號

明治十七年十二月四日

明治十一年(三月)甲第七十四號ヲ以テ轉宗改式届出ノ儀及布達置候處自今届出ニ及ハス

右布達候事

○乙第七號

明治十八年一月二十六日

郡區町村

祠宇並寺院創立再興復舊引直移轉廢合及附屬ノ地所建物什物抵當賣買其他寶物古文書等財産ニ關スル諸願ハ神社ハ氏子二名以上寺院ハ檀家二名以上本寺自今管長ノ添書ヲ要スヘシ此旨相達候事

○縣令第三十二號

明治二十四年六月六日

明治十四年本縣甲第五百五十五號達左ノ通り改定ス

一各郡市町村內社寺惣代人ノ義氏子檀家中(氏子檀家ナキモノハ信徒)相應ノ財産ヲ有シ衆望ノ歸スルモノ三名以上相選ミ市町村役場へ届出該社寺ノ願届等ハ渾テ達

署ヲ以テ可差出且社寺收入財産(田畑山林ノ所得ハ勿論賽物祈禱葬儀回向料等一切ノ受納物ヲ云フ)ハ其社寺有ニ屬スヘキモノト其神官住職ニ付スルモノトノ豫約毎社寺適宜相定メ平素混亂セサル様取調置ク可シ

但神宮官國幣社ハ此限ニアラス

一社寺總代人ハ滿三年毎ニ改選市町村役場へ届出ツヘシ尤モ期限中ト雖モ犯罪其他不良ノ所爲アルトキハ臨時改選ス可シ

但臨時改選ノ外ハ前總代人再三當選スルモ妨ケナシ

○訓令第三十六號

明治二十四年六月十九日

郡市役所

町村役場

社寺總代人改選並轉籍死亡等ニテ變換アルトキハ跡總代人ノ住所姓名其都度(町村長ハ郡長ヲ經)縣廳ニ報告スヘシ

○訓令第四十七號

明治二十四年七月三十日

縣鄉村社神官

縣鄉村社神官奉務規則左ノ通改定ス

縣鄉村社神官奉務規則

第一條 神官ハ神明ニ對シ尊崇悃誠ヲ主トシ典例ニ從ヒ各其本務ヲ盡スヘシ

第二條 神官ハ祭祀ノ典則舊來ノ儀式ヲ遵守シ決シテ紛亂スヘカラス其社ノ例祭民俗因襲ノ神賑等ハ適宜行フコトヲ得

但臨時祭ヲ行ハントスルトキハ所轄警察署又ハ分署へ届出ヘシ

○社寺

第三條 神官ハ人民ノ請求ニ應シ神符神像等ヲ授クルハ妨ケナシト雖モ荷モ貪汚ノ所爲アルヘカラス

第四條 神官ハ社殿及其境内ヲ清潔ニシ修造取締等常ニ意ヲ注キ舊觀ヲ失墜セス汚穢損ニ至ラシムヘカラス

第五條 神官ハ神社所藏ノ寶物什器及古文書類ヲ監護シテ散逸セシムヘカラス如何ナル場合ト雖トモ賣却讓與又ハ質入書入スヘカラス

第六條 神官ハ神社所有ノ財産ヲ管理シ金穀ヲ出納スヘシ

第七條 神官ハ其管理ニ係ル不動産積立金穀ヲ濫リニ賣却讓與又ハ質入書入スヘカラス若シ不得止必要アルトキハ氏子又ハ信徒ノ協議ヲ經知事ノ許可ヲ受クヘシ

第八條 神社ニ委托山林アルトキハ其栽植伐採其他山林ノ保護ニ注意シ損害ヲ來スカ如キコトナカラシムルヲ要ス

○訓令第五十六號 明治二十四年九月四日 縣鄉村社神官

本年訓令第四十七號ヲ以テ神官事務規則改定候ニ付テハ右規則ノ趣旨ニ基キ管内ニ一ノ神官取締規約ヲ設ケ知事ノ認可ヲ受ク可シ

但規約認可ノ上ハ明治十八年五月一日日本縣達神官取締規則ハ廢止ス

○縣令第二十七號 明治二十五年四月十六日

縣社以下ノ神官ハ皇典講究所卒業證書寫若クハ該所本分所試驗濟ノ證書所持ノ者ニ

限リ認可スヘキ旨明治十五年(九月)甲第百九號ヲ以テ布達及置候處自今左ニ掲クル者ハ皇典講究所學階試驗ニ不拘神官タルヲ認可候條選舉ノ節ハ本人ノ履歷書ヲ添ヘ出願ス可シ

但第一項及第五項ニ當ル者ハ其神社ノ舊神官又ハ該神社所在ノ市町村ニ累代居住セシ者三名ノ證明書第四項ニ當ル者ハ市町村長ノ證明書第七項ニ當ル者ハ町村長ノ證明書ヲ請ケ願書ニ添附ス可シ

祠 官

一 維新前五代以上其神社へ奉仕セシ者及其子孫

二 明治十五年八月以前ヨリ奉職勸續ノ者但現職祠掌ヨリ祠官ニ選舉スルハ此限ニアラス

三 有位者又ハ判任官以上滿二年奉職セシ者

四 本縣ニ於テ一箇年直接國稅拾圓以上ヲ納ムル者 祠 掌

五 維新前五代以上其神社へ奉職セシ者及其子孫

六 明治十五年八月以前ヨリ奉職勸續ノ者

七 該神社所在地ノ町村長三年以上奉職セシ者

○訓令第二十號 明治二十五年四月十六日 市役所 町村役場

○社 寺

縣社以下神官選舉ノ際縣令第二十七號但書ニ依リ市町村長ノ證明書ヲ請フ者アルト  
 キハ其事實ヲ調査シ之ヲ附與ス可シ  
 ○訓令第二十三號 明治二十七年七月十七日 郡市役所 町村役場  
 明治二十四年(六月)訓令第三十六號ニ依リ報告スヘキ社寺總代人住所姓名ハ左式ニ  
 依リ調製差出スヘシ

社(寺)總代人名簿

社格何社(何宗何寺)	町(村)大字番地族籍	姓	名
何社 何神社	何町大字何番地士族	何	某
	何	何	某
	何	何	某
	何	何	某
何社 何神社	何村大字何番地平民	何	某

備考

一本簿ハ一社(寺)毎ニ一行ノ空欄ヲ存スルモノトス  
 一本簿ハ一町村毎社寺ヲ混同セサル様調製スルモノトス  
 一本簿用紙ハ大判美濃野紙トス

○訓令第三十號 明治二十七年九月二十二日 郡市役所 町村役場  
 本年勅令第二十二號第六條社司社掌候補者ノ資格及推薦ニ關スル手續ハ當分ノ内從  
 前ノ例規ニ據リ二名以上ノ候補者ヲ推薦セシムヘシ  
 右訓令ス

○人民

○乙第二十八號 明治十五年七月十九日 郡區町村  
 無籍在監人就籍ノ義ニ付本年六月内務省乙第三十九號達ニ據リ該地へ就籍ノ手續ヲ  
 行ハシメタル節ハ最寄警察署又ハ分署屯所へ通知可致此旨相達候事  
 ○甲第七號 明治十六年一月二十九日

○人民

衛生局衛生年報表式中結婚統計表調製ニ付テハ自今男女共結婚又ハ養子入夫送籍スルモノハ管内外ヲ問ハス送籍證中本人ノ肩書ハ何男又ノ下へ初縁又ハ再縁ト記載可致此旨布達候事

○乙第十六號

明治十六年五月五日

郡區町村

當縣下在籍者ニシテ行旅中神奈川縣下ニ於テ途上天災又ハ病氣ニ罹リタルトキハ警察官ニ於テ一時救護ヲ加ヘ其重病危篤ノ者ニ限リ其地ノ戸長ヘ引渡救護方爲取計右ニ屬スル經費ハ其時々該戸長ヨリ當人本籍ニ通知可致旨同縣ヨリ照會有之候儀右戸長ヨリ照會有之候ハ、夫々辨償方可取計此旨相達候事

○乙第四十七號

明治十六年八月三十日

郡區町村

管下人民ニシテ旅行中他府縣下ニ於テ天災又ハ重病ニ罹リ日下難開モノ有之節ハ相當救護シ右ニ屬スル經費辨償方其時々所在戸長ヨリ通報可有之節ニ候條其際ニ於テハ篤ト取調該經費速ニ辨償可致様可取計此旨相達候事

○乙第八號

明治十七年二月六日

郡區町村

失踪逃亡死亡及絶家ノ財産ヲ區戸長ニ於テ保管スルルハ財産目錄ヲ作り戸長ハ郡長ニ差出ヘシ此旨相達候事

○乙第五十九號

明治十八年九月二十一日

郡區町村

自今褒賞條例ニ相當スル見込ノ者有之節ハ區戸長ニ於テ左ノ要件無遺漏取調(戸長ハ郡長

長ヲ)具申スヘシ此旨相達候事

賞與上申書ニ具狀スヘキ要件

- 一 住所族籍職業官位勳等アル者
- 一 姓名年齢
- 一 受刑受賞ノ有無 賞罰トモ其全文ヲ掲クヘシ
- 一 褒賞ヲ賜ハルヘキ要旨

人名救助者

- 一 被救助者ノ住所族籍姓名年齢
- 一 最モ危難ト見認ムヘキ實況 被救助者ノ口供ヲ添ユルヲ要ス
- 一 敷人ニテ救助セシ場合ニ於テハ其内最モ率先尽力ノ者ヨリ甲乙ノ區別
- 一 水難者ヲ救助セシ者ハ游泳シテ其所ニ至リシヤ又ハ船筏或ハ助綱等ヲ以テセシヤノ區別
- 一 水難者ト救助者ノ船又ハ陸トノ距離及河海ノ深淺廣狹水勢ノ緩急風力ノ強弱等 繪圖面ヲ添ヘテ其場所ノ形狀ヲ明カニスルヲ要ス
- 一 德行者
- 一 履歷
- 一 家族ノ員數 戸籍寫ヲ添ユルヲ要ス

○人 民

一 其家ノ貧富  
 一 其志行最モ卓絶ト見認ムル件  
 一 其志探ヲ變セサルノ年數  
 公益ヲ興セシ者  
 一 平素ノ志行  
 一 事業經營ノ始末及ヒ將來維持ノ方法並費金ノ額  
 一 學校病院等ヲ設立セシモノハ其構造並建坪其他教師生徒及ヒ醫員患者ノ員數  
 一 疏河築堤修繕ニ係ルモノハ工事ノ模様着手及ヒ竣功ノ年月施工前後實地ノ景況又ハ川幅堤等ノ里程間數等  
 右ノ外ト雖モ緊要ノ件ハ記載ヲ要ス  
 ○乙第一號 明治十九年一月二十八日 郡區町村  
 本縣下在籍者ニシテ札幌縣下へ全戸寄留ノ者ニ對シ在籍證書等ヲ要シ該住地戸長役場若クハ郡役所へ照會ノ節ハ戸籍寫ヲ添ヒヘキ旨同縣ヨリ照會越候條右様可取計此旨相達候事  
 ○乙第二號 明治十九年二月一日 郡區町村  
 明治十八年(九月)乙第六十號達賞與申請書式別紙之通更正候條此旨相達候事

(別紙)

寄附金拾圓以上ノ金員人名取調表

寄附金額	學校病院道路橋梁 聖田等所在地名	費途ノ 目的	寄附 年月日	本籍住所	族籍 姓	名
、、、、、	何國郡(區)町村	、、、、、	、、、、、	、、、、、	華士族(平民)	某
、、、、、	、、、、、	、、、、、	、、、、、	、、、、、	何	町
、、、、、	、、、、、	、、、、、	、、、、、	、、、、、	何	村

寄附物品價格拾圓以上物品人名取調表

寄附物品個 數(坪數)	價格	學校病院道路橋梁 聖田等所在地名	費途ノ 目的	寄附 年月日	本籍住所	族籍 姓	名
、、、、、	、、、、、	何國郡(區)町村	、、、、、	、、、、、	、、、、、	華士族(平民)	某
、、、、、	、、、、、	、、、、、	、、、、、	、、、、、	、、、、、	何	會社

凡例

○人民

- 一 寄附年月日ハ金穀物品ヲ納入セシ年月日ヲ記入シ又年賦寄附ハ初年ノ月日ト完納ノ年月日ヲ記入ス
  - 一 勞力ヲ寄附セシ者ハ其延人員ヲ寄附物品ノ欄ニ記入シ賃銀ハ合算シテ價額ノ欄ニ記入ス
  - 一 寄附者ハ其住所ノ府縣郡區町村名ヲ本籍住所ノ欄ニ併記ス
  - 一 本表ハ事項繁雜ニシテ一行中ニ記載シ尽ス能ハサル者ハ次行ニ記スルモ妨ナシ
  - 一 學校ハ其種類例ヘハ小學校中學校或ハ縣立町村立等ノ區別ヲ記載シ病院モ亦之ニ準ス
  - 一 費途ノ目的ハ例ヘハ學校病院等へ金員ヲ寄附セシモノハ建築費書籍購求費ト明記スルカ如シ
  - 一 官位勳爵有ルモノハ族籍ノ下ニ記載ス
  - 一 用紙ハ大判美濃十三行界紙ニ限リ其他ヲ用ユ可カラス
- 乙第十二號 明治十九年四月七日 郡區町村
- 行旅病人及死亡人取扱手續第四條ノ廣告書ハ自今戶長ヨリ直ニ新聞社ニ送致スヘシ
- 縣令第三號 明治十九年七月三十日 郡區町村
- 自今棄兒拾上ケ又ハ死亡等有之時ハ其時々區戶長ヨリ報告スヘシ
- 但明治十六年(七月)丙第二十三號達ハ廢止ス

- 訓令第十七號 明治十九年十一月二十六日 郡區町村
- 本年內務省令第二十二號戶籍取扱手續第二條第十五條ニ依リ郡役所ニ納ムル所ノ戶籍簿副本及諸屆書ハ之ヲ保存スルニ止メ加除異動ヲ登記スルニ及ハス又寄留ニ關スル屆書ハ戶長役場及區役所ニ保存スヘシ
- 訓令第二十二號 明治二十年三月三日 郡區町村
- 戶籍ニ關スル諸屆書ハ左ノ項目ニ依リ取扱フヘシ
- 一 明治十九年內務省令第十九號第十五條但書ニ依リ本籍外ノ寄留者ヨリ差出シタル屆書ハ寄留簿ニ登記シタル上入寄留届ト合綴スヘシ但出產ニ於テハ別ニ入寄留届ヲ爲サシムルニ及ハス
  - 二 同令第六條ノ入寄留届書第七條ノ寄留者退去届書及第八條ノ寄留者復歸届書ハ類集編綴ス可シ
  - 三 同令第二十二號第十五條ニ依リ戶長役場區役所ヨリ郡役所又ハ縣廳ニ送付スル諸屆書ハ加除籍異動ノ三種ニ分綴ス可シ郡役所ニ於テハ每町村限リ便宜編輯ス可シ
- 縣令第五十一號 明治二十年六月一日
- 郡區內寄留者届出方ヲ定ムルコト左ノ如シ
- 一 郡區內同町村又ハ他町村ニ寄留シタル時自己ノ所有地ニ於テハ寄留者ヨリ借地

借家ニ於テハ寄留者及地主又ハ家主其地所其家ヲ管理スル者ヨリ十日以内ニ其地區戸長ニ届出且他町村ニシテ戸長役場所轄ノ異ナルモノハ本籍地區戸長ヘ同時ニ届書ヲ發送ス可シ

- 一 寄留地ヲ去ル時自己ノ所有地ニ於テハ寄留者ヨリ借地借家ニ於テハ地主又ハ家主又ハ其地所其家ヲ管理スル者ヨリ十日以内ニ其地區戸長ニ届出可シ
- 一 他戸長役場所轄町村ニ寄留者本籍地ニ歸リタル時ハ戸主又ハ本人ヨリ十日以内ニ其地區戸長ニ届出可シ

○訓令第四十七號 明治二十年六月一日 郡區町村

郡區内寄留者ハ明治十九年(十月)内務省令第二十二號第二十條乃至二十四條ニ準シ便宜寄留簿ヲ編製シ其登記ハ同年(十一月)訓令第十五號戸籍登記書式中出入寄留簿登記書式ニ依ル可シ

○訓令第六十三號 明治二十年六月三十日 郡區

自今有位者(華族ヲ除ク)改姓名貫族替又ハ死去セシ時ハ其願届ヲ取扱タル郡區長ヨリ直ニ宮内省華族局ヘ通牒ス可シ

○縣令第六十二號 明治二十一年七月二十八日

失踪又ハ死亡跡遺留財産ヲ其親族ニ於テ管理スル場合本人又ハ其家ノ利害ニ關シ協議ヲ以テ賣却若クハ交換等ヲ爲サントスルキ不動産ハ自今都テ所管裁判所ノ認可ヲ

受クヘシ

○訓令第十五號 明治二十四年三月十三日 市役所 町村役場

戸籍ニ關スル諸願ニ添附ノ戸籍寫ハ市町村長ニ於テ戸籍簿ニ照シ證印ス可シ

○訓令第三十一號 明治二十五年六月十六日 郡市役所 町村役場

行旅死亡人及ヒ行旅病人ニ關スル取扱手續左ノ通之ヲ定ム

但明治十七年四月乙第十六號達行旅病人及死亡人取扱手續ハ廢止ス

行旅死亡人及行旅病人ニ關スル取扱手續

第一條 行旅死亡人取扱規則(明治十五年九月第四十四號布告)第一條ノ假埋葬費等

ハ左ノ種目ニ限ル可シ

- 一 棺桶料
- 一 繩料
- 一 蕙料
- 一 竹木料
- 一 埋葬人夫料
- 一 看守人料
- 一 新聞紙公告料

第二條 前條ノ費額ハ新聞紙公告料ヲ除クノ外金三圓以内ヲ以テ處辨ス可シ

第三條 行旅死亡人取扱規則第二條ノ通報書ニハ本籍氏名ヲ記シタル本人遺留ノ書類等アルトキハ其寫ヲ添フ可シ

第四條 行旅死亡人取扱規則第三條ノ揭示及公告ハ第一號書式ニ依ル可シ

第五條 行旅死亡人取扱規則第二條ノ家元赤貧ニシテ辨償シ能ハサル者ノ費用ハ市町村長ヨリ其事由ヲ詳具シ家元ヨリ申出テノ書面及ヒ戶籍寫並ニ費用計算書ヲ添ヘ請求ス可シ

行旅死亡人取扱規則第三條ノ本籍詳カナラサル者ノ費用ハ市町村長ヨリ其事由ヲ詳具シ第二號ノ仕譯書ヲ添ヘ請求ス可シ

第六條 行旅死亡人取扱規則第五條ノ保管金其保管年間ヲ經過シ仍ホ本籍詳カナラサルトキハ市町村長ニ於テ第三號ノ書面ヲ以テ之ヲ送納ス可シ

第七條 行旅人ニシテ重症飢餓ニ迫リ目下捨テ置キ難キモノアルトキ其地市町村長ハ相當ノ救護ヲ加ヘ本籍國郡市町村番地氏名族籍職業年齢家族及ヒ親戚ノ氏名住所等詳細聞糺シ其旨速ニ本籍市町村長ニ通報ス可シ

但通報書ニハ病名及ヒ歩行ノ難易並ニ豫後等ヲ記シタル醫師診斷書ヲ添フ可シ

第八條 前條ノ救護費ハ左ノ種目ニ限ル可シ

一 藥價

一 診察料

一 看護人雇料

一 食料

一 借家、小屋掛料

一 薪、炭、油料

第九條 本籍氏名詳カナル行旅病人(傳染病ヲ除ク)ニ屬スル救護費ハ市町村長ニ於テ計算書ヲ作り其時々本籍市町村長ヘ照會シ辨償ヲ受ク可シ

本籍詳カナラサル行旅病人ニ屬スル救護費ハ地方稅ヨリ支辨スヘキニ付第五條ニ準據シ請求ス可シ

第十條 行旅病人救護ノ通報ヲ受ケタルトキハ市町村長ハ之ヲ其家ニ通示シ費用ヲ辨償セシメ救護地市町村長ニ送付ス可シ若シ其家元赤貧ニシテ辨償シ能ハサルトキハ地方稅ヨリ支辨スヘキニ付第五條ニ準據シ請求ス可シ

第十一條 此取扱手續ニ依リ町村長ヨリ縣廳ニ差出スヘキ書類ハ總テ郡役所ヲ經由シ郡長ハ精密審査ノ上進達ス可シ

第一號

産所及住所ノ一端ヲ知り得タル者ハ肩書スヘシ

氏 名

年 齡

○人民

三百七十一



氏名年齢詳カナラサル者ハ  
(年齢何歳位男、女)ト記スヘシ

相貌

一丈何尺何寸位

一肉何狀

一頭髮何狀

一顏何狀

一眉何狀

一眼何狀

一鼻何狀

一口何狀

別徴アルモノハ尙ホ此ニ記載スヘシ

着服

一何々

一何々

所持物品

一何々

一何々

所持金ハ一々其種類員數又衣類ハ色縞等他ノ物品ハ形狀地質等詳細ニ記載ス可シ

右年月日何市町村字何々ニ於テ倒死(溺死)(變死)致候ニ付(致居候ヲ發見候ニ付)假埋葬取計置候條身寄ノ者又ハ心當ノ者有之候ハ、速ニ當役所(役場)へ申出テラ  
ルヘシ

年月日

宮城縣何市役所(何郡町村役場)

第二號ノ一

仕譯書

名	稱	數	量	單	價	小計
棺	桶料	壹	個	金	金	
繩	料	何	把	金	金	
菴	料	何	枚	金	金	
竹	水料	何	本	金	金	
埋葬人	夫料	何	人	金	金	
看守人	雇料	何	人	金	金	
某新聞紙	公告料	自何月何日 至何月何日	何	行	金	金
合金何程						
埋葬費其他雜費						

内

金何程

遺金及所持品公賣金ヲ以テ支辨ノ分

〇人民

金何程

請求ノ分

右之通相違無之候也

年月日

知事宛

市町村長 氏

名印

○本書ニハ賣券ヲ添フヘシ  
 ○遺品拂下ノ時公賣ニ付シタルモノハ其入札書(三番札マテ)又隨意契約ノトキハ其承諾書又ハ調書ヲ添フヘシ  
 第二號ノ二

仕譯書

名	稱	數	量	價	計
藥	價	何	日	金	金
診	察	料	何	回	金
看	護	人	何	日	金
食	料	何	何	何	金
食	料	何	何	何	金

借	家	料	何	何	何	何	何
薪	料	何	貫	匁	金	金	金
炭	料	何	貫	匁	金	金	金
油	料	何	貫	匁	金	金	金
小	屋	掛	料	何	金	金	金
合	金	何	程	金	金	金	金

右之通相違無之候也

年月日

知事宛

市町村長 氏

名印

○本書ニハ賣券ヲ添フ可シ  
 第三號  
 保管金送納書

金何程

金何程

合金何租

遺金

遺物公賣金

總價其他雜費

是ハ年月日本籍不詳某何地ニ於テ病死ノ節遺金其外保管ノ分滿五ケ年經過ノ所  
尙ホ本籍不詳ニ付送納ノ分

外

金何程

死亡埋葬費

右金(別紙何々爲替券又ハ預リ券ヲ以テ)送納候也

年月日

市町村長 氏

名 印

知事宛

○遺品拂下ノトキ公賣ニ付シタルモノハ其入札書(三番マテ)又隨意契約ノトキハ  
其承諾書又ハ調書ヲ添フヘシ

○訓令第二十四號

明治二十六年四月十七日

郡市役所 町村役場

戸籍取扱心得左ノ通定ム

但明治十九年(十一月)訓令第十五號ハ廢止ス

戸籍取扱心得

- 第一條 戸籍番號ノナキ地ニ新ニ一戸ヲ設クルモノアルトキハ隣家戸籍番號ニ據リ  
市町村長ニ於テ何番地ノ二、三ノ番號ヲ付スヘシ但地勢ニ依リ隣家番號ニ據リ難  
キ場合ニアリテハ其町村ノ未番號ヲ付スヘシ
- 第二條 全戸附籍ノ戸籍ハ附籍主戸籍ノ次ニ編入スヘシ

本令(八月)第三十  
四號ヲ以テ  
七條ノ二書  
由二項ノ十  
一由三項ノ  
同條ヲ追加  
欄入戸籍中  
記入戸籍中  
下欄式ヲ由  
字ノ二總テ  
及大ノ由登

大由式第一  
事由出寄八  
字由二書第  
一留二書第  
地又ハ何番  
地又ハ何番  
同式ヲ加下  
何年何月何  
日何月何日  
登記目録ヲ  
式第何項第  
加右傍何項  
月全書下領  
改日全書下  
第十名生年  
姓ノ一ノ生  
日ノ一ノ生  
加一ノ生年  
第送生年  
大結一ノ生  
字加一ノ生

第三條 戸籍取扱手續第十四條ニ依リ戸籍ヲ改寫シタルトキハ其時々新舊紙ヲ綴リ  
換エヘシ

第四條 戸籍登記及登記目録書式等ハ別冊ニ依ルヘシ

第五條 登記目録ニハ市町村長ニ於テ每葉ニ職印ヲ以テ契印スヘシ

第六條 戸籍及登記目録ニハ女ノ名ニ限リ平假名ヲ以テ記スヘシ

第七條 登記目録ハ總テ戸籍取扱手續第四條ニ準シ取扱フヘシ

第八條 市町村長ハ毎年十二月三十一日迄ニ登記目録ニ登記シタル最終ノ次行ニ終  
結ノ旨ヲ記シ署名捺印スヘシ其例左ノ如シ

第一號ヨリ第何號ヲ以テ終結ス

但第何號第何號ハ取消

市町村長 印

第九條 登記目録ハ翌年一月三十一日迄ニ市ニ在テハ縣廳町村ニ在テハ郡役所ニ差  
出シ検査ヲ受クヘシ

第十條 郡役所ニ於テ登記目録ヲ検査シタルトキハ何年何月何日検査ト記シ檢印  
(役所印)ノ上下付スヘシ

第十一條 明治五年二月一日戸籍編製以前ノモノニシテ漏籍ノ分ハ登記目録書式第  
四無籍者就籍ノ部ニ登記シ編製以後出生ノ者ニテ届漏ノ分ハ全書式中本籍人管内

○人 民

三百七十七

若クハ管外出生ノ部ニ登記スヘシ

第十二條 棄兒ヲ發見シタル届出アルトキハ市町村長ハ調書ヲ作り其兒ノ推定出生年月及男女ノ別並氏名ヲ調書ニ記シ登記目錄及戶籍ニ登記スヘシ

第十三條 棄兒ノ父母確定シタルトキハ市町村長ニ於テ其兒ヲ引渡シ調書ヲ作り戶籍ヲ削除スヘシ但父母ノ本籍胡カナルモノハ該市町村長ヘ其顛末ヲ通知スヘシ

第十四條 家族ノ附籍者ハ別紙ニ記載シ第二條ニ依リ取扱フヘシ但登記目錄ニ登記スルニ及ハス

第十五條 戶籍登記上市町村長ノ錯誤脱漏ニ係ルモノヲ發見シタルトキハ市長ハ知事町村長ハ郡長ノ認可ヲ受ケ調書ヲ作り訂正スヘシ

第十六條 左ニ掲クル場合ニ於テハ市町村長ハ調書ヲ作り登記目錄及戶籍ニ登記スヘシ

- 一 明治十三年一月布告第三號ニ依リ族稱廢絶平民トナリタルモノアルトキ
- 二 明治十七年六月布告第二十號ニ依リ絶家トナリタルモノアルトキ
- 三 明治六年五月布告第百七十七號ニ依リ失踪者年齢八十歳以上ニ至リ除籍シタルモノアルトキ
- 四 重籍者除籍スルトキ
- 五 單身戶主死亡届出ヲ爲スモノアラサルトキ

六 明治二十二年七月勅令第九十三號監獄則第三十七條ニ依リ刑死者ノ通知アリタルトキ

第十七條 戶籍登記ノ例ハ左ノ如シ

戶籍同戶列次

戶主

高祖父母

曾祖父母

祖父母

父母

妻

妾 (刑法實施明治十五年一月一日以前入籍シタルモノ)

子 (嫡出子ヲ先トシ其次ヲ養子庶子及私生子トシ各年齢ノ長幼ニ依ル以下之ニ做フ)

婦

孫

曾孫

玄孫

○人民

- 兄弟姉妹
- 大伯叔父母
- 伯叔父母
- 甥 姪
- 又甥姪
- 從兄弟姉妹
- 從兄弟姉妹違
- 又從兄弟姉妹
- 兄弟姉妹夫妻
- 大伯叔父母夫妻
- 伯叔父母夫妻
- 從兄弟姉妹以下夫妻
- 住所ノ欄
- 一 全戸附籍ハ番地ノ下ニ族氏名附籍ト記スヘシ
- 二 家族ノ附籍ハ空欄トス
- 三 借舎ハ特ニ借舎ト記スルニ及ハス
- 前戸主ノ欄

- 一 分家ハ空欄トス
- 二 絶家及廢家ノ再興ハ絶家又ハ廢家トシタル當時ノ戸主氏名ヲ記ス
- 三 當戸主ト前戸主ト親族ノ續柄ナキモノハ單ニ(亡)何某トノミ記ス
- 四 女戸主ヘ入夫トナリ直チニ戸主トナリタルモノ結婚セサルトキハ縁女何某ト記ス
- 五 繼父ノ跡ヲ相續シタルモノハ繼父何某ト記ス
- 六 子ノ跡ヲ相續シタルモノハ長(二)男何某ト記ス
- 七 繼父ニ於テ前夫ノ子ノ跡ヲ相續シタルトキハ單ニ(亡)何某ト記ス
- 八 前戸主ノ離縁ニ係ルモノハ特ニ其旨ヲ記セス單ニ何某ト記ス
- 額書ノ欄
- 一 養子ニシテ家督相續スヘキモノハ養嗣子、家督ヲ相續セサルモノハ養子トノミ記ス
- 二 養子戸主トナリタルトキ該家ノ親族ニハ總テ養ノ字ヲ冠記ス
- 三 子ノ妻ハ婦、孫ノ妻ハ孫婦ト記ス其他此例ニ倣フ
- 四 孫ヘ他ヨリ夫ヲ迎ヒタルモノハ養孫ト記ス
- 五 前夫ノ子ヲ嗣子トナシタルモノハ長男、嗣子トナサハルモノハ前夫子ト記ス
- 六 戸主又ハ長二男ニ配偶スヘキ女子ニシテ結婚セサルモノハ戸主ニ在リテハ縁

- 女長二男ニ在リテハ長(二)男縁女ト記ス其他此例ニ倣フ
- 七 伯叔父兄弟ノ妻ハ伯(叔)父(兄)(弟)妻ト記ス其他此例ニ倣フ
- 八 父ノ妾ハ父妾ト記ス其他此例ニ倣フ
- 九 父ノ庶子ハ兄(弟)(姉)(妹)ト記ス其他此例ニ倣フ
- 十 庶子戸主トナリタルトキ父ノ本妻ヲ嫡母庶母ヲ生母ト記ス
- 十一 伯叔母姉妹姪ノ夫ハ伯(叔)母(姉)(妹)(姪)夫ト記ス
- 十二 伯叔父兄弟ノ遺妻ニ後夫ヲ迎ヒタルトキハ其遺妻ノ方ニハ伯(叔)父(兄)(弟)妻後夫妻ト記シ後夫ノ方ニハ伯(叔)父(兄)(弟)妻後夫ト記ス
- 十三 亡伯叔母姉妹ノ夫ニ後妻ヲ迎ヒタルトキハ伯(叔)母(姉)(妹)夫後妻ト記ス
- 十四 妻ノ實家ノ弟ヲ相續人ニ貰ヒ受ケ又ハ外孫又ハ甥ヲ以テ家督ヲ繼承セシムルトキハ養嗣子ト記ス
- 十五 戸主家女ノ妻ヲ離婚シタルトキハ年ノ長幼ニ依リ養姉(妹)ト記ス
- 十六 私生子アル女戸主夫ヲ迎ヒ戸主ヲ讓リタルトキ其私生子ハ空欄トス
- 十七 私生子ヲ男子己ノ子ト認メ其籍ニ編入シタルトキハ庶子ト記ス但其父非戸主ナルトキハ戸主ノ續柄即子孫或ハ甥姪等ト記ス
- 十八 携帶子ハ妻又ハ何携帶ト記ス其他此例ニ倣フ
- 十九 戸籍同戸列次ノ從弟、從弟違、又從弟等男ハ從兄(弟)、從兄(弟)違、又從兄(弟)、

女ハ從姉(妹)、從姉(妹)違、又從姉(妹)ト記ス

二十 女戸主ノ私生子ハ私生男(女)ト記ス

廿一 家族ノ附籍者ハ空欄トス

廿二 非戸主ノ私生子ハ戸主ノ續柄ヲ記ス

事由書ノ欄

- 一 家族ノ附籍者ハ何年何月何日何郡何町何村大字何番地ヨリ附籍ト記ス
- 肩書ノ欄
- 一 養子戸主トナリタルトキハ(亡)養父某養子ト記ス
- 二 養父子ナルトキハ(亡)祖父某養子ト記ス
- 三 前夫ノ子ハ嗣子トナスト否トヲ問ハス(亡)前夫某何男(女)ト記ス
- 四 長二三男養子孫兄弟伯叔父甥等ノ妻ニハ長(一)(二)(三)男養子孫兄(弟)伯(叔)父甥某妻ト記ス其他此例ニ倣フ
- 五 姉妹伯叔母姪等ノ夫ニハ姉(妹)伯(叔)母姪某夫ト記ス其他此例ニ倣フ
- 六 伯叔父兄弟ノ遺妻ニ後夫ヲ迎ヒタルトキハ亡伯(叔)父兄(弟)某妻後夫某妻ト記ス
- 七 亡伯叔母姉妹ノ夫ニ後妻ヲ娶リタルトキハ亡伯(叔)母姉(妹)某夫其後妻ト記ス

八 母ニ後夫ヲ迎ヒタルトキハ繼父某妻ト記ス但繼父ノ方ニハ肩書セス  
 九 長ニ男養子孫ノ縁女ニハ長(ニ)男養子孫某縁女ト記ス其他此例ニ倣フ  
 十 姉妹伯叔母姪ノ子ハ(亡)姉(妹)伯(叔)母姪某夫某何男(女)ト記ス  
 十一 曠家前他ニ縁組シタル男女子離縁復籍シタルトキ男戸主ノ子ハ長(ニ)男(女)  
 女戸主ノ子ハ(亡)前夫何某何男(女)ト記ス  
 十二 養子ノ子ハ(亡)養(嗣)子某何某何男(女)ト記ス  
 十三 庶子及私生子ノ父母結婚シ嫡出タルノ届出ヲ爲シタルトキハ長ニ男(女)ト記  
 ス  
 十四 非戸主ノ私生子ハ何某私生子ト記ス  
 十五 非戸主ノ庶子ハ何某庶子ト記ス  
 十六 棄兒新ニ一戸ヲ立テタルトキハ空欄トス  
 十七 家女タル祖母及母ハ單ニ(亡)曾祖父某何女祖父某何女ト記ス  
 十八 家族ノ附籍者ハ本籍戸主ノ續柄ヲ記ス  
 十九 養子女タルモノ分家シタルトキハ養父某養子(女)ト記ス其他ハ父某何男(女)  
 ト記ス但入夫ニシテ分家シタルトキハ父何某何男ト記ス其他此例ニ倣フ  
 第十八條 第十二條第十三條第十六條ノ調書ハ一般ノ届書ト同様取扱フヘシ但棄兒  
 發見ノ届書ハ其調書ニ添付シ置クヘシ

第十五條ノ調書ハ別ニ一括ト爲シ一般ノ届書ト同シク縣廳又ハ郡役所ニ送付スヘ  
 シ

第十九條 戸籍ニ關スル届書中正誤又ハ塗抹シタルモノアルトキハ必ス届人ヲシテ  
 押印セシムヘシ

第二十條 戸籍取扱手續第十條ニ依リ届書ニ受領ノ年月日及登記濟ノ旨ヲ記入スル  
 トキハ見易キ所ニ記入シ且ツ登記目錄ノ番號ヲ付記スヘシ

第二十一條 前條ノ外届書ニハ何等ノ事項ヲモ記入スヘカラス

第二十二條 戸籍取扱手續第十五條ニ依リ郡役所又ハ縣廳ニ送付スル諸届書ハ其番  
 號ヲ逐ヒ加籍、除籍、異動ノ三種ニ分綴シ冊尾ニ員數ヲ記シ職印ヲ以テ契印スヘシ  
 其例左ノ如シ

記

何々 何件  
 何々 何件  
 計何件

年 月 日 市町村長 氏 名 印

第二十三條 郡役所ニ於テ前條ノ届書ヲ受領シタルトキハ調査ノ上月次ヲ逐ヒ毎年  
 一町村限リ製本スヘシ但加籍、除籍、異動ノ三種ヲ區別シ合本ト爲スモ妨ケナシ

○人民

第二十四條 戶籍取扱手續第十六條第十七條ノ送籍狀及第十九條ノ入籍報知書ハ別冊登記書式附録ニ依ルヘシ

第二十五條 送籍ヲナシタル者入籍シ難キ事故アルトキハ送籍請求人ニ其旨ヲ通示シ請求書ヲ却下スヘシ但此場合ニ於テハ登記目録ニ朱線ヲ畫シ取消ノ事由ヲ朱記シ認印スヘシ

第二十六條 送籍狀受領後尙入籍届出サルモノアルトキハ速ニ届出ノ手續ヲ爲サシムヘシ

第二十七條 送籍ニ對シ入籍取扱ヒ難キ事故アルトキハ該事由ヲ具シ送籍狀ヲ返送スヘシ

第二十八條 家族ノ附籍ハ送籍ヲ爲サス其旨ヲ附籍地市町村長ヘ通知スヘシ

第二十九條 全戸送籍ノ際他ノ家族ノ附籍アルトキハ其送籍狀ニ記載セス別ニ通知スヘシ但此場合ニ於テハ附籍者ノ本籍市町村長ヘモ亦通知スヘシ

第三十條 全戸送籍ノ際戸主未定ナルトキハ送籍狀ニ死亡又ハ離縁シタル前戸主ヨリノ續柄ヲ記スヘシ

第三十一條 送籍ノ際出寄留ノモノアルトキハ曩ニ受領セシ出寄留届書ヲ移轉地市町村長ニ引繼クヘシ

第三十二條 外國人ハ婚嫁シタル者及外國人ニシテ入籍ノ者ハ送籍狀又ハ入籍報知

書ヲ發スルニ及ハス

第三十三條 明治十九年内務省令第十九號第六條ニ依リ寄留届出ヲ爲ス場合ニ於テ公使館領事館又ハ居留地外國人所有ノ家屋ニ寄留シタル者ハ本人(幼者ハ後見人又ハ親族)ノ届出ノミヲ以テ其手續ヲ了シタルモノトシ其第七條寄留地ヲ去リ本籍地ヘ復歸又ハ他ヘ寄留シタル届書ヲ本籍市町村長ニ於テ受領シタルトキハ其旨ヲ該市町村長ヨリ前寄留地ノ市町村長ヘ通報スヘシ

第三十四條 寄留中ニ係ル出生兒ハ其届書ニ依リ出入寄留簿ニ登記シ別ニ寄留届出ヲ爲サシムルニ及ハス

第三十五條 出寄留ノ者本籍移轉(出寄留地ニアラサル他ノ管内ヘ)シタルトキハ前本籍地市町村長ハ出寄留簿ヲ刪除シ其旨ヲ寄留地市町村長ヘ通知シ寄留地市町村長ハ入寄留簿ヲ訂正スヘシ

移轉地市町村長ニ於テハ第三十一條ノ引繼書ニ依リ出寄留簿ニ登記シ引繼ニ依リ取扱ヒタル事項ヲ記載シ置クヘシ

第三十六條 家族ノ附籍者ハ寄留者同様取扱フヘシ

第三十七條 明治十九年内務省令第十九號第六條第七條第八條ノ届書ハ左ノ四類ニ編綴スヘシ

一 出寄留届書



二 入寄留届書  
 三 寄留者退去届書  
 四 寄留者復歸届書

第三十八條 同省令第五條但書ニ依リ本籍外ノ寄留者ヨリ差出タル届書ハ入寄留簿ニ登記シタル上入寄留届書ニ合綴スヘシ

第三十九條 寄留者ニ關スル届書ハ總テ縣廳又ハ郡役所ニ送付スルニ及ハス

第四十條 明治二十年五月縣令第五十一號郡市内ノ寄留ハ戶籍取扱手續第二十條乃至第二十四條ニ準シ便宜寄留簿ヲ編製シ其登記ハ第十條戶籍登記書式中出入寄留簿登記書式ニ依ルヘシ

第四十一條 郡市内寄留者ニ關スル届書ハ第三十七條乃至第三十九條ニ準シ取扱フヘシ

第四十二條 他ヨリ全戶轉入シタルモノ、戶籍ニハ欄外右側ヘ年月日府縣郡市町村番地ヨリ入ト記スヘシ

第四十三條 戶籍ノ閱覽ヲ請フモノアルトキハ市町村長助役又ハ主任書記ノ面前ニ於テ之ヲ許スヘシ

第四十四條 棄兒年齡滿十三年ニ達シタルトキハ其引受人ヲシテ一戶新立ノ届出ヲ爲サシムヘシ

戶籍登記書式第一

書式中○印ハ朱字又ハ朱線

何年何月何(大字)何十何番地ニ移ル <sup>㊦</sup>		士族ノ何年何月何日華族ニ列セラル <sup>㊦</sup>	
宮城縣何郡市何町村何(大字)何番地		前戶主 亡父何某	
何年何月何日何府縣何郡市何町村何(大字)何番地ニ轉籍 <sup>㊦</sup>		亡父某長男	
何年何月何日相續 <sup>㊦</sup> 何年何月何日願濟改名 <sup>㊦</sup> 何年何月何日願濟復姓 <sup>㊦</sup>		復姓號 新名	
何年何月何日何縣何郡何村大字平民何某ニ女入籍ス <sup>㊦</sup>		何年何月何日生	
何年何月何日何府何區何町大字士族何某長女入籍ス <sup>㊦</sup>		亡父某妻	
何年何月何日願濟廢嫡 <sup>㊦</sup>		何年何月何日生	
男	長	妻	母
某	某	某	某
何年何月何日生		何年何月何日生	

何年何月何日何縣何郡何町大字平民何某長男某ニ嫁ス①					
何年何月何日死亡②					
何年何月何日何縣何郡何町大字平民何某養女トナル③					
何年何月何日何縣何郡何村大字何番地へ分家ス④					
何年何月何日何縣何郡何村大字平民何某ニ女入籍ス⑤					
何年何月何日夫某ニ從ヒ分家ス					
妻	弟	弟	女	二	男
			二	二	女
					長
何年何月何日生	弟某妻	何年何月何日生	亡父某二男	何年何月何日生	何年何月何日生
某	某	某	某	某	某

三百九十

何年何月何日何縣何郡何村大字何番地絶家何氏ヲ再興ス⑥				
何年何月何日何縣何郡何村大字平民何某ニ嫁ス⑦				
何年何月何日願濟大叔母ヲ大伯母ト正誤ス⑧何年何月何日失踪何年何月何日届出⑨何年何月何日滿八十歳ニ付除籍⑩				
何年何月何日失踪何年何月何日届出⑪何年何月何日何縣何郡何村大字ニ現在⑫何年何月何日何縣何郡何村ニ於テ死亡⑬				
何年何月何日何地某裁判所言渡ニヨリ何縣何郡何町大字平民何某妻離婚ニ付復歸⑭				
母	叔	父	叔	大
			叔	伯
				妹
				弟
何年何月何日生	亡祖父某二女	何年何月何日生	亡祖父某三男	何年何月何日生
某	某	某	某	某

三百九十一

○人民

何縣何郡何町大字平民何某長男(孫)何年何月何日母某離 婚復歸ニ付願濟携帶				
何年何月何日何縣何郡何町大字士族何某長女入籍ス⑩	何年何月何日何縣何郡何町士族何某方へ離婚復歸ス⑩			
何年何月何日何府何區何町大字平民何某長男某妻離婚ニ 付復歸⑩何年何月何日養子某妻ト爲ル⑩				
何年何月何日何縣何郡何村大字平民何某二男入籍ス⑩				
從弟	婦	孫	長女	養子
叔母某何男 某	何年何月何日生 長男某妻某 某	何年何月何日生 長男某長男 某	何年何月何日生 養子某妻 某	何年何月何日生 某

備考 願濟又ハ確定裁判言渡ニ係ル事項ハ何年何月何日願濟云々又ハ何年何月何日何地何裁判所裁判言渡云々ト  
記スヘシ朱線ハ除籍又ハ姓名身分變換又ハ訂正ヲ登記スルトキニ盡スルモノトス

戶籍登記書式第二

宮城縣何郡市何町村何(大字)何番地

平民

何年何月何日何府(縣)何郡何村大字士族何某弟分家⑩			
何年何月何日何縣何郡何村大字平民何某二女入籍ス⑩			
戶主	妻	長男	長女
父某何男 何某	何年何月何日生 某	何年何月何日生 某	何年何月何日生 某

○人民

戶籍登記書式第三

宮城縣何郡市何町何村何(大字)何番地

平民

前戶主亡何某

何年何月何日何縣何郡何村。大字何番地土族何某弟絕家再興

主 戶

亡父某三男

何 某

何年何月何日生

戶籍登記書式第四

宮城縣何郡市何町村

何年何月何日何町。大字何番地地先ニ於テ拾上

何年何月何日何町。大字平民何某養子ト爲ル

何年何月何日何町。大字通何處ニ於テ拾上

何年何月何日何縣何郡何村。大字平民何某引受ト爲ル

兒 棄

何 某

推測何年何月生

兒 棄

何 某

推測何年何月生

○人 民

入寄留籍登記書式第一

三百九十六

宮城縣何郡市何町村何(大字)何番地持家  
寄留

本籍何郡何町何番地

士族

何年何月何日全戸寄留届出⑩		何年何月何日退去届出⑪		何年何月何日寄留届出⑫	
戸主	母	妹	妻	何年何月何日生	何年何月何日生
亡父某二男	何 某	何年何月何日生	亡父某妻	何年何月何日生	何年何月何日生
○ 某	○ 某	亡父某長女	何年何月何日生	何年何月何日生	何年何月何日生
何年何月何日生	何年何月何日生	何年何月何日生	何年何月何日生	何年何月何日生	何年何月何日生

何年何月何日出生何年何月何日届出⑬

長男	何年何月何日生
某	何年何月何日生

備考

他府縣人入寄留簿ノ本籍ハ何府縣何郡市何町村何番地ト記シ他郡市人入寄留簿ノ本籍ハ何郡市何町村何番地ト記ス

○人民

三百九十七

入寄留簿登記書式第二

宮城縣何郡市何町村何(大字)何番地借地  
寄留  
何年何月何日退去届出

何年何月何日妻外一名携帶寄留届出

本籍何縣何郡何村何番地  
平民戶主氏名

世帯主

父某二男

何某

何年何月何日生

妻某

某

何年何月何日生

女二某

某

何年何月何日生

女長某

某

何年何月何日生

入寄留簿登記書式第三

何年何月何日何町大字何番地平民何某方(寄留届出)

何縣何郡何村何番地主族  
何某二男 新名

何某

何年何月何日生

何年何月何日何町大字何番地平民何某方(寄留届出)

何府何郡何村何番地平民

何某

何年何月何日生

何年何月何日河町大字何番地主族何某方(寄留届出)

何縣何市何町何番地平民  
何某妹

何某

何年何月何日生

何年何月何日何町大字何番地平民何某方(寄留届出)

何府何市何區何町何番地平民

何某

何年何月何日生

何年何月何日何町大字何番地平民何某方(寄留届出)

全人妻

何某

何年何月何日生

○人民

出寄留簿書式第一

全		全		何年何月何日		寄留		寄留屆書 發送月日	寄留屆書 受領月日	出寄留簿	他都市ノ部
全	全	全	全	何月何日	何月何日	何年	何月何日				
全		全		何都市何町村何番地		寄留地		住所族籍	姓名		
何年何月何日何都市何町村何番地 何某方へ寄留替④				何村何番地 地士族		何某父 某					
弟 右同人二男 某		母 右全人妻 某						姓名			

何年何月何日		何年何月何日		何年何月何日		何年何月何日	
何月何日	何月何日	何月何日	何月何日	何月何日	何月何日	何月何日	何月何日
何郡何村何番地何某方		何郡何町何村何(大字)何番地何某方					
何村何番地(大字)何		何町何番地士族					
何某三女 某		何某弟 某					

出寄留簿書式第二

全		全		何月何日	何年何月何日	何月何日	何年何月何日	寄留屆書 發送月日	寄留屆書 受領月日	寄留地 名	住所 族籍	姓	名	
														何月何日
全	全	全	全	何月何日	何年何月何日	何月何日	何年何月何日	何府縣何郡市何町村何番地何某方	何町村何番地士族	何某弟	何	何	何	何
全	全	全	全	何月何日	何年何月何日	何月何日	何年何月何日	何府縣何郡市何町村何番地何某方	何町村何番地士族	何某弟	何	何	何	何

出寄留簿

他府縣ノ部

登記目錄部門並事項書式第一

登記目錄

加籍目錄

- 本籍人管内出生ノ部
- 本籍人管外出生ノ部
- 棄兒ノ部
- 無籍者就籍ノ部
- 他府縣ヨリ入籍ノ部
- 結婚入籍
- 縁女入籍
- 養子女入籍
- 相續人入籍
- 携帶者入籍
- 親族入籍
- 私生子引受
- 棄兒引受
- 棄兒引受替入籍



離婚復籍  
 養子女離縁復籍  
 相續人離縁復籍  
 分家入籍  
 分家者復歸入籍  
 附籍者入籍  
 附籍者別立入籍  
 絶家再興入籍  
 轉住入籍  
 他郡市ヨリ入籍ノ部  
 事項同上  
 他町村役場管内ヨリ入籍ノ部  
 事項同上  
 登記目錄部門並事項書式第二  
 登記目錄  
 除籍目錄  
 本籍人管内死亡ノ部

本籍人管外死亡ノ部  
 失踪者及重籍者除籍ノ部  
 他府縣へ送籍ノ部  
 結婚送籍  
 縁女送籍  
 養子女送籍  
 相續人送籍  
 携帶者送籍  
 親族送籍  
 私生子引渡  
 棄兒引渡  
 棄兒引受替送籍  
 離婚送籍  
 養子女離縁送籍  
 相續人離縁送籍  
 分家送籍  
 分家者復歸送籍

附籍者送籍

附籍者別立送籍

絕家再與送籍

轉住送籍

他郡市へ送籍ノ部

事項同上

他町村役場管内へ送籍ノ部

事項同上

登記目錄部門並事項書式第三

登記目錄

管内異動目錄

管内送入籍ノ部

事項加籍目錄入籍ノ部除籍目錄送籍ノ部ニ同シ

異動ノ部

戸内結婚

戸内離婚

家名相續

廢戶主

廢嫡

廢嫡者復立

庶子私生子爲嫡出

棄兒立戸

失踪

失踪者復歸

失踪者所在分明

改名

復姓

身分變換

廢家

絕家

轉住

戸籍訂正

登記目錄書式第一

明治何年加籍目錄

本籍人管内出生ノ部

番 號	出生月日		住 所	族 籍	父姓名		母名		戸主ト 出生者 トノ 続		名
	月	日			何 某	何 某	何 某	何 某	二 男		
第一號	何月何日	何月何日	何村何番地土族	妻 某	何 某	何 某長男	婦 某	孫	某長女	某	
第二號	何月何日	何月何日	何村何(大字)何番地平民	何 某	何 某	何 某長男	婦 某	孫	某長女	某	
第三號	何月何日	何月何日	何村何番地平民	何 某	何 某	何 某	何 某	甥	某私生子	某	

備考 明治五年二月一日以後出生ノ者ニシテ屆滿ニ係ル分ハ出生月日ノ上ニ其年號ヲ記ス管外出生ノ部モ亦同

登記目錄書式第二

明治何年加籍目錄

本籍人管外出生之部

番 號	出生月日			出生地名	住所	族籍	父姓名		母名		戸主ト 出生者 トノ 続		名	
	出生 月日	出生 月日	出生 月日				父 姓名	母 姓名	父 姓名	母 姓名	父 姓名	母 姓名		
第一號	何月何日	何月何日	何月何日	何府何市何區何町	何村何(大字)何番地平民	何某弟	何某弟	何某弟	何某弟	何某弟	何某弟	某長男	某	
第二號	何月何日	何月何日	何月何日	何縣何郡何村	何村何番地土族	何某	何某	何某	何某	何某	何某	長女	某	
第三號	何月何日	何月何日	何月何日	何縣何市何町	何村何番地土族	何某叔母	何某叔母	何某叔母	何某叔母	何某叔母	何某叔母	從妹	某私生子	某

登記目錄書式第三

明治何年加籍目錄

棄兒之部

番號	拾上月日	拾上地名	推測生年月	姓
第一號	何月何日 <sup>㊦</sup>	何村何番地	何年何月	何
				某

登記目錄書式第四

明治何年加籍目錄

無籍者就籍ノ部

番號	就籍願濟日	就籍届出日	就籍地名	生年月日	姓
第一號	何月何日	何月何日 <sup>㊦</sup>	何村何番地	何年何月何日	某 <sup>〇</sup> 何 <sup>〇</sup> 男 <sup>〇</sup> 女 <sup>〇</sup>
					某

登記目錄書式第五

明治何年加籍目錄

他府縣ヨリ入籍ノ部

番號	入籍事項	入籍届出日	住所族籍	姓名及生年月日
		入籍報知書發送月日		
第一號	何縣何郡何村何番地平民何 某二女ヲ娶ル <sup>㊦</sup>	何月何日	何村何番地 平民	何某婦 長男某妻
		何月何日		某
第二號	何縣何郡何町何番地平民何 某長女ヲ貰受ク	何月何日	何村何番地 士族	何某長男 某緣女
		何月何日		某
第三號	何府何區何町何番地士族何 某二女ヲ貰受ク	何月何日	何村何番地 士族	何某養子
		何月何日		某

○人 民

第四號	何縣何郡何村何番地平民何某弟ヲ貰受ク	何月何日	何村何番地	平民	何某相續人實兄亡父何某二男	何年何月何日	某
第五號	何縣何郡何村何番地平民何某甥ヲ父某結婚ニ付携帶入籍ス	何月何日	何村何番地	平民	何某夫長男	何年何月何日	某
第六號	何縣何郡何町何番地士族何某叔母亡父某二女ヲ實母ニ付引受ク	何月何日	何村何番地	士族	何某母	何年何月何日	某
第七號	何縣何區何町何番地平民何某二女某私生子ヲ引受ク	何月何日	何村何番地	平民	何某庶子	何年何月何日	某
第八號	何縣何郡何村何番地平民何某引受棄兒何某ヲ引取ル何月何日何地何裁判所裁判言渡	何月何日	何村何番地	平民	何某三男	何年何月何日	某

四百十二

第九號	何府何郡何村何番地平民何某引受棄兒ヲ更ニ引受ク	何月何日	何村何番地	平民	何某引受棄兒	何年何月何日	何某
第一〇號	何府何區何町何番地平民何某妻離婚ニ付復籍ス	何月何日	何村何番地	平民	何某二女	何年何月何日	某
第一號	何縣何郡何村平民何某養女離婚ニ付復籍ス	何月何日	何村何番地	士族	何某三女	何年何月何日	某
第二號	何縣何郡何村平民何某相續人離婚ニ付復籍ス	何月何日	何村何番地	平民	何某弟亡父某三男	何年何月何日	某
第三號	何縣何郡何村何番地士族何某長女ヲ母某離婚ニ付携帶入籍ス	何月何日	何村何番地	平民	何某孫母某長女	何年何月何日	某

○人民

四百十三

		第一四號	何府何區何町士族何某二男 某分家入籍ス	何月何日	何月何日	何村何番地	平民	何月何日	何年何月何日	何	某	
		第一五號	何府何區何町何番地へ分家 ノ處復歸入籍ス	何月何日	何月何日	何村何番地	士族	何某二男	妻	何年何月何日	何年何月何日	某
			何年何月何日何縣何區何町 何番地平民何某二女ヲ娶ル					二男某妻	婦	何年何月何日	何年何月何日	某
								全人長男	孫	何年何月何日	何年何月何日	某

四百十四

		第一六號	何縣何郡何村何番地ヨリ附 籍ス	何月何日	何月何日	何村何番地	士族何某附 籍平民	亡父某三男 弟	長男	亡父某	何年何月何日	何	某
		第一七號	何縣何市何町何番地士族何 某附籍ノ處別立入籍ス	何月何日	何月何日	何村何番地	平民	前戶主某			何年何月何日	何	某
		第一八號	何府何郡何村何番地平民何 某三男當村何番地絶家何氏 ヲ再興ス	何月何日	何月何日	何村何番地	平民				何年何月何日	何	某
		第一九號	何縣何市何町何番地ヨリ轉 住入籍ス	何月何日	何月何日	何村何番地	平民	亡父某	長男		何年何月何日	何	某

○人 民

四百十五

何年何月何日何縣何郡何村		何番地平民何某長女ヲ娶ル	
妻		某	
長女		某	
何年何月何日		何年何月何日	

登記目錄書式第六  
 明治何年加籍目錄 他郡市ヨリ入籍之部

登記目錄書式第七  
 明治何年加籍目錄 他町村役場管内ヨリ入籍之部

登記目錄書式第八

明治何年除籍目錄				本籍人管内死亡之部			
番號	死亡月日	死亡届出	住	籍	所	姓名及生年月	
第一號	何月何日何月何日	何月何日	何村何番地平民	何某母	何年何月	某	
第二號	何月何日何月何日	何月何日	何村何番地士族		何年何月	何某	

登記目錄書式第九

明治何年除籍目錄

本籍人管外死亡ノ部

番 號	死亡 年月日		死亡 屆書 發送 月日	死亡 屆書 受領 月日	死亡 地名	住 所 籍	姓名 及 生 年 月
	何年何月何日	何月何日					
第一號	何年何月何日	何月何日			何府何區何町	何村何番地平民何某二男	何年何月 某

登記目錄書式第十

明治何年除籍目錄

失踪者及重籍者除籍ノ部

番 號	除籍 月日	除 籍 事 項	住 所 籍	姓 名	生 年 月 日
第一號	何年何月何日	何年何月何日ヨリ失踪本年何月何日ヨリ滿八十歳ニ至ルニ付除籍	平民 何村何番地	何某又 從弟	何 某
第二號	何年何月何日	八十一歳何ヶ月何年何月何日ヨリ失踪本年何月何日ヨリ滿三十六ヶ月ニ至ルニ付除籍	平民 何村何番地		何 某
第三號	何年何月何日	何縣何郡何村何番地ニ現住シ全村在籍ノ者ニ付何月何日何村除籍	平民 何村何番地		何 某
第四號	何年何月何日	何年何月何日何縣何郡何町何番地平民何某養子ト爲リ全町在籍ノ者ニ付常村除籍	平民 何村何番地	何某三男	何 某



番 號	送 籍 事 項	送籍狀發送 月日		住 所	姓	名
		入籍報告 受領月日	月日			
第一號	何府何區何町何番地平民何某 妻ニ嫁ス①	何月何日	何月何日	平民	何村何番地	何某妹 父某三女
第二號	何縣何郡何村何番地士族何某 長男某縁女トナル	何月何日	何月何日	平民	何村何番地	何某長女
第三號	何縣何郡何村何番地士族何某 養子トナル	何月何日	何月何日	平民	何村何番地	何某二男

第 八 號	第 七 號	第 六 號	第 五 號	第 四 號	送籍狀發送 月日		住 所	姓	名
					入籍報告 受領月日	月日			
何縣何郡何村何番地平民何某 三男ナルコト發覺シ何年何月 何日何地裁判所裁判言渡ニ付 引渡ス	何府何郡何村何番地平民何某 子ト爲ル	何府何郡何村何番地士族何某 實母ニ付引受ト爲ル	何縣何區何町士族何某ト父某 結婚ニ付携帶送籍ス	何縣何郡何村何番地平民何某 實兄ニ付相續人ト爲ル	何月何日	何月何日	平民	何村何番地	何某弟 父某四男
何月何日	何月何日	何月何日	何月何日	何月何日	何月何日	何月何日	平民	何村何番地	何某甥 弟某長男
平民	平民	士族	士族	平民	平民	平民	何村何番地	何村何番地	何某叔母 亡祖父某 三女
受養兒	何某引	何某二女 某私生子	何某甥	何某弟	何某	何某	何村何番地	何村何番地	何某

		第一五號		第一四號
		何縣何郡何町何番地士族何某 二男分家ノ處復歸送籍ス		何府何郡何町何番地へ分家送籍ス
		何月何日	何月何日	何月何日
		平民	何村何番地	士族 何村何番地
長男	妻			何某二男
			何	
某	某		某	某

第九號	第一〇號	第一一號	第一二號	第一三號
何縣何郡何町何番地平民何某 更ニ引受ク	何縣何郡何村何番地平民何某 二女離婚ニ付送籍ス	何縣何區何町何番地平民何某 三女離婚ニ付送籍ス	何縣何區何町何番地平民何某 伯父離婚ニ付送籍ス	何縣何郡何村何番地平民何某 孫母某離婚ニ付携帶送籍ス
何月何日	何月何日	何月何日	何月何日	何月何日
平民	何村何番地 士族	平民	何村何番地 士族	平民
何某引受 棄兒	何某妻	何某養女	何某相續 人實兄亡 父某二男	何某長女
何				
某	某	某	某	某

第一九號	第一八號	第一七號		第一六號
籍ス 何府何郡何村何番地へ轉住送	ヲ再興ス 何府何區何町何番地絶家何氏	籍ス 何府何郡何村何番地へ別立送		方へ附籍ス 何縣何郡何町何番地士族何某
何月何日	何月何日	何月何日		何月何日
士族	平民	何村何番地 何某附籍 平民		平民 何村何番地
	何某三男		亡父某四男弟	
何某		何某		何某

四百二十四

				何年何月何日何縣何郡何村士族何某姉ヲ娶ル
			長女	妻
				某

登記目錄書式第十二  
 明治何年除籍目錄  
 他郡市へ送籍之部  
 登記目錄書式第十三  
 明治何年除籍目錄  
 他町村役場管内へ送籍之部

〇人 民

四百二十五

登記目錄書式第十四

明治何年管内異動目錄

管内送入籍之部

番 號	送 入 籍 事 項	送 入 籍 願		所 籍	姓	生 年 月 日	
		送 入 籍 日	送 入 籍 願 日				
第一號	何町何番地士族何某長男某長女ヲ娶ル <sup>①</sup>	何月何日	何月何日	平民	何町何番地何某弟妻	弟某妻	某
第二號	何町何番地平民何某伯父ヲ貰受ク	何月何日	何月何日	平民	何町何番地何某夫	何某夫	某
第三號	何町何番地平民何某二女ヲ貰受ク	何月何日	何月何日	平民	何町何番地何某長男	綠女	某

第七號	第六號	第五號	第四號
何町何番地平民何某廢戶ノ上何某ノ養子ト爲リタルニ付携帶ス	何町何番地平民何某叔父ヲ貰受ク	何年何月何日何縣何郡何村何番地平民何某長女ヲ娶ル	何町何番地士族何某二女ヲ貰受ク
何月何日	何月何日	何月何日	何月何日
平民	平民	士族	士族
何町何番地何某養子携帶	何町何番地何某相續人實弟亡父何某三男	養子某妻養女	何某養子
某	某	某	某

第一五號	第一四號		第一三號	第一二號
何町何番地ヨリ附籍ス	何町何番地へ分家ノ處復籍ス	何年何月何日何縣何區何町 何番地平民何某二女ヲ娶ル	何町何番地平民何某弟分家ス	何町何番地士族何某養女離縁 ニ付復籍ス
何月何日	何月何日		何月何日	何月何日
平民 何某附籍 何町何番地 士族	平民 何町何番地		平民 何町何番地	士族 何町何番地
	何某叔父	妻		何某二女
何			何	
某	某	某	某	某

第一一號	第一〇號	第九號		第八號
何町何番地士族何某二男某妻 離婚ニ付復籍ス	何町預リノ處引受ク	何町何番地平民何某妹某私生 子ヲ弟某子トシテ引受ク		何町何番地平民何某祖父母ヲ 實父母ニ付引受ク
何月何日	何月何日	何月何日		何月何日
平民 何町何番地	平民 何町何番地	平民 何町何番地		士族 何町何番地
何某妹	棄兒 何某引受	弟某庶子 何某姪	父某妻 母	何某父
	何			
某	某	某	某	某

登記目錄書式第十五

明治何年管内異動目錄

異動之部

第二號 離	第一號 結婚 ①	番 號		異 動 事 項		異 動 之 部	
		何月何日	何月何日	願 濟 月 日	異 動 屆 出 月 日	住 所	姓
平民 何町何番地	士族 何町何番地	何某養子	婦				
某	某	某	某	生	年	月	日

○人民

四百三十一

第一七號	第一六號	異 動 事 項		異 動 之 部	
何町何番地士族何某二男絶家 何氏ヲ再興ス	何町何番地平民何某へ附籍ノ 處離籍ス	何年何月何日何府何郡何村	何番地士族何某長女ヲ娶ス	何月何日	何月何日
何町何番地 平民	何町何番地 士族		妻		
何 某	何 某	何 某	何 某	亡父某二 妹	某

四百三十

○人民

第一〇號	第九號	第八號	第七號	第六號
棄兒ノ處年齡滿十三年ニ達シタルヲ以テ新ニ一戸ヲ立ツ	母某父某ト結婚ニ依リ庶子私生子嫡出ト爲ル	廢嫡ノ處事故解除ニ付復立ス	廢嫡	前戸主父某失踪シ何ケ年經過ニ依リ相續ス
何月何日	何月何日	何月何日	何月何日	何月何日
平民	平民	士族	士族	平民
何町何番地	何町何番地	何町何番地	何町何番地	何町何番地
	何某長男	何某長男	何某長男	
何				何
某	某	某	某	某
推測何年何月生				

第五號	第四號	第三號		
父某死亡跡相續ス	父某退隱シ長男某相續ス	戸主ヲ廢ス		
何月何日	何月何日	何月何日	何月何日	何月何日
平民	士族	平民		
何町何番地	何町何番地	何町何番地		
	父		養子某妻	長女
何		何		
某	某	某	某	某

第一一號	何年何月何日ヨリ失踪	何月何日	何町何番地	何某叔父	何	某
第一二號	失踪ノ處何月何日復歸	何月何日	何町何番地	何某二男		某
第一三號	失踪ノ處何月何日何縣何郡何村ニ現在	何月何日	何町何番地	何某弟		某
第一四號	舊稱名ヲ改ム	何月何日	何町何番地			何
第一五號	舊姓ヲ原姓ニ復ス	何月何日	何町何番地			何

第一六號	平民ノ處何月何日士族へ編入 セラル	何月何日	何町何番地	士族	何	某
第一七號	士族ノ處平民ニ歸入ス	何月何日	何町何番地	平民	何	某
第一八號	廢家ス	何月何日	何町何番地	平民	何	某
第一九號	死亡後六ヶ月ヲ過キ相續人ヲ 届出サルニ付何月絶家ト爲ル		何町何番地	士族	何	某
第二〇號	失踪ノ處年齡八十歳ニ達シ除 籍シタル後六ヶ月ヲ過キ相續 人ヲ届出サルニ付何月何日絶 家ト爲ル		何町何番地	平民	何	某

〇人  
民

四百三十五



第二一號	何(同)町何番地ヨリ移轉ス	何月何日	平民	何町何番地	何	某
第二二號	戸主トノ續柄何ハ何ノ錯誤ニ付訂正	何月何日	平民	何町何番地	長男	某
第二三號	生年月日ニ何月トアルハ何月ノ誤ニ付訂正	何月何日	士族	何町何番地	何某二男	某
第二四號	名某字ハ某字ノ誤ニ付訂正	何月何日	平民	何町何番地	何某三女	某

四百三十六

全戸送籍狀

割印。第 號 本標號ハ登記目錄ノ番號ヲ用キ役所役場印ヲ以テ登記目錄ト割印スヘシ

宮城縣何郡(市)何町村大字何(大字)何番地	平民	前戸主亡父何某
何年何月何日相續、何年何月何日願濟改名、何年何月何日願濟復姓	戸	亡父某長男 舊姓號 何 某 舊名
何年何月何日何縣何郡何村平民何某二女入籍	主	何年何月何日生
何年何月何日何府何區何町士族何某長女入籍	母	亡父某妻 何年何月何日生
	妻	何年何月何日生

〇人民

四百三十七

右全戸何名御所轄何村へ轉住ノ義申出ニ付及送籍候也

年月日

宮城縣何郡(市)町(村)長何 某印

何府縣何郡(市)何町(村)長何某殿

一市町村長氏名詳ナラサルトキハ市役所町村役場宛ニ作ルモ妨ケナシ以下倣之

人別送籍狀

割印。第 號

宮城縣何郡市何町村。大字何(大字)何番地

士族

戸主氏名

何年何月何日何府何區何町士族何某養子離縁ニ付復籍

亡父某二男

弟

何

某

何年何月何日生

右之者御所轄何町村何番地士族何某養子ニ遣ハシ候旨申出ニ付及送籍候也

年月日

宮城縣何郡(市)何町(村)長何 某印

何府縣何郡(市)何町(村)長何某殿

入籍報知書書式第一

第 號

元何縣何郡何町士族

何

某

家族

何

某

右何年何月何日付第何號送籍狀ニ照查シ今何日何村何番地へ入籍取扱係此段及通知候也

年月日

宮城縣何郡(市)町(村)長何 某印

何府縣何郡市何町村長何某殿

入籍報知書書式第二

割印。第 號

元何縣何區何町何番地

平民何某二男

右何年何月何日第何號送籍狀ニ照査シ昨何日何町何番地士族何某養子ニ入籍取扱候此段及報知候也

年 月 日

宮城縣何郡(市)町(村)長 何 某 印

○訓令第二十六號 明治二十六年五月十三日 郡市町村

送籍ニ際シ其送籍狀ニ誤謬若クハ脱漏等アルモ入籍ニ差支フル事實アルモノハ外ハ一旦入籍ヲ爲シタル上訂正ノ手續取計フヘシ

○訓令第三號 明治二十七年二月五日 郡市役所 町村役場

本縣看守志願ノ者市町村長ニ與書願出タルトキハ左ノ各項ニ觸レサル者ニ限リ與書ヲ與フヘシ

一出願ノ日ヨリ滿三年以内ニ徵兵ニ相當スル者

二重罪ノ刑又ハ重禁錮ノ刑ニ處セラレ若クハ同上ノ刑ニ處セラルヘキ罪ヲ犯シ單ニ監視ニ付セラレタル者及輕禁錮ノ刑ニ處セラレ滿期後五年ヲ経過セサル者但舊法ニ依リ處罰セラレタル者亦之ニ準ス

三賭博犯處分規則ニ依リ懲罰ニ處セラレタル者

四身分不相應ノ負債アル者又ハ家督分散者タルノ宣告ヲ受ケ未タ復權ヲ得サル者

又ハ從前身代限ノ處分ヲ受ケ未タ辨償ノ義務ヲ終ヘサル者

五平素行狀不正ノ者

○訓令第五號 明治二十七年二月十二日 郡市役所 町村役場

自今町村役場(市ハ市)ニ於テ行旅死亡人所持ノ殘金及漂流物公賣代金ヲ受ケタルトキハ其仕譯書ヲ添ヘ十五日以内ニ郡役所(市ハ縣廳)ニ送付スヘシ但從前ノ令違ニシテ本訓令ニ抵觸スルモノハ廢止ス

○訓令第十一號 明治二十七年三月十日 郡市役所 町村役場

本籍人ニシテ刑罰ヲ受ケ及身代限ノ處分又ハ家督分散者クハ從前ノ宣告ヲ受ケタル者アルキハ別紙書式ニ據リ取調簿ヲ製シ市役所及町村役場ニ備置キ右帳簿ニ記載アルモノヲ送籍スルトキハ該帳本記載ナキモノハ右事由項ニ當ル行爲アリシコトナキ旨ノ通知書ヲ送籍狀ニ添付スヘシ

何郡(市)何町(村)大字何何番地 士族(平民)某何男 ノ 某 何年何月何日生

事 項

一何年何月何日何裁判所ニ於テ身代限ノ處分ヲ受ク

○人 民

考	備
一	一何年何月何日何裁判所ニ於テ家資分散ノ宣告ヲ受ク <sup>㊦</sup>
二	一何年何月何日何裁判所ニ於テ破産ノ宣告ヲ受ク <sup>㊦</sup>
三	一何年何月何日何裁判所ニ於テ何々ノ罪ニ依リ重(輕)禁錮何年罰金何圓ニ處セラ
四	ル <sup>㊦</sup>
五	本簿ハ戸籍番號ノ順序ニ依リ町村大字ヲ區別シ調製スルモノトス
六	本簿ハ記載者ノ氏名ヲいろは別ニナシ卷首ニ目錄ヲ付スルモノトス
七	本簿ハ一紙ニ二人ヲ記載スルモノトス
八	從來處刑ヲ受ケタルモノモ悉皆本簿ニ記載スルモノトス
九	本簿記載者ヲ送籍シタルトキハ送籍地及其年月日ヲ備考欄ニ記入スヘシ
十	債務ノ辨償ヲ終ヘ又ハ復權シタルモノハ其事由及年月日ヲ事項欄ニ朱書シ捺印スヘシ

○訓令第十四號 明治二十七年三月三十日 郡市役所 町村役場

行旅死亡人取扱及重病入救護方ハ明治廿五年(六月)訓令第卅一號ニ依リ處分スヘキノ處其費用區々ニ涉リ支出上不都合不協候條自今左ノ額ヲ超過セサル様處辨スヘシ但從前ノ令違ニシテ本訓令ニ牴觸スルモノハ廢止ス

一救護費	一 日	金六錢以内
藥料	一 回	金貳拾錢以内
診察料	一 食	金三錢以内
食料	一 人 一 日	金拾八錢以内
看護人	一 日	金拾錢以内
借家	一 軒	金四拾錢以内
小家	一 人 一 日	金貳拾錢以内
薪炭油料	一 日	金五錢以内
一埋葬費		
棺桶棒繩其他雜費		金六拾錢以内
埋葬人夫	二人 一人 一 日	金貳拾五錢以内
死体看守人夫	二人 一人 一 日	貳拾五錢以内

○人民

○農商工

○甲第四百四號

明治十五年八月二十四日

牛馬羊豚種類名稱改正相成候ニ付明治十四年(五月)甲第八十九號布達牛馬羊豚籍調査手續更ニ左ノ通相定メ候條此旨布達候事

牛馬羊豚籍調査手續

第一條 牛馬羊豚籍ハ戸長調査シ一村限リ其簿冊ヲ役場ニ備置クヘシ

第二條 牛馬籍ハ第一號羊豚籍ハ第二號雛形ニ準シ持主ヨリ増減届出ノ時々之ヲ加

除シ毎年十二月三十一日現在高ヲ調査スヘシ

第三條 牛馬羊豚ヲ所有スル者ハ戸長役場ニ於テ第三號雛形ノ如ク鑑札ヲ製シ一

頭毎ニ持主ヘ下附スヘシ

但持主ハ鑑札料壹錢ツ、ヲ戸長役場ヘ納ムヘシ

第四條 牛馬羊豚ノ増減ハ日數五日以内持主ヨリ戸長役場ニ申出々生及ヒ買入讓請

ハケハ鑑札ヲ請ケ斃死屠殺賣却讓渡ハ鑑札ヲ返上スヘシ

第五條 賣買讓渡ハ他郡村等總テ戸長所轄外ニ係ルキハ第四號雛形ノ如ク送狀ヲ持

主ニ下附シ之ヲ添ヘ買受讓受人ニ渡スヘシ

本令中手數  
料ニ關スル  
事項ハ町村制  
實施以後効  
力ナシ

但賣渡讓渡人ハ送狀請求ノ際手數料金壹錢ツ、ヲ戸長役場ヘ收ムヘシ

第六條 買受讓受人ハ本村戸長役場ヘ届出ノ節送狀ヲ添ヘシ

第七條 戸長ニ於テ毎年十二月三十一日現在高ヲ調査終リタル上ハ牛馬羊豚ノ頭數

及増減等ヲ第五號雛形ノ如ク製表ヲ掲ケ籍帳ト共ニ一月十五日限リ所轄郡區役所

ニ出スヘシ

第八條 郡區役所ニ於テハ籍帳ノ合計ヲ調査シ戸長ノ調査表ト照合シ籍帳ハ檢印下

渡シ調査表ハ取纏置キ一郡區總計表(第五號表)ヲ作リ二月二日限リ縣廳ニ出スヘシ

第九條 牛馬羊豚ノ病ニ罹リタルキハ持主ヨリ戸長ニ届出獸醫ノ治療ヲ乞ヒ傳染病

ト視認スルキハ速ニ郡區役所ヘ申出郡區役所ヨリ縣廳ニ報告スヘシ

第十條 傳染病ニ罹リタルモノハ其病名及斃死等ノ區別其時々帳簿ニ明細記載シ置

キ第五號表雛形未葉ノ例ニ倣ヒ取調ヘ差出スヘシ

第一號

明治何年ヨリ

何郡區何町村馬籍改帳

戸長役場

内種ノ部

役戸

明治何年何國何郡何村何某ヨリ買受

持主

一牝 何毛何歳

何ノ某

○明治何年何月何國何郡何村何某へ賣却鑑札返納

明治何年何國何郡何村何某ヨリ買受

持主

一牝 何毛何歳

何ノ某

馬籍帳ニハ乳用ヲ除ク

同何年何郡何村何某ヨリ買受

持主

一同 何毛何歳

何ノ某

○明治何年老牛ニ付何駒場ニ於テ何郡何某へ糶賣鑑札返納

全上

明治何年何國何郡何村何某ヨリ買受

持主

一牡 何毛何歳

何ノ某

○明治何年何月屠殺鑑札返納

馬籍帳ニ屠殺ヲ除ク

同年所持ノ牝ヨリ出生

持主

一牡 何毛何歳

何ノ某

以下総テ同シ

同年何村何某ヨリ買受

持主

一牝 何毛何歳

何ノ某

○明治何年何月斃死調査濟鑑札返納

明治何年何郡何村ヨリ買入

持主

一牝 何毛何歳

何ノ某

明治何年當村ニテ出生何ノ某ヨリ買入

同

一同 何毛何歳

何ノ某

○明治何年何月屠殺鑑札返納

○農商工

馬籍帳ニハ屠殺ヲ除ク

明治何年産牛馬組合醸集金ヲ以テ何國何郡何村何某ヨリ買入

一牡 何毛何歳 同 預人 何ノ 某

明治何年何月何駒場ニ於テ何村何某ヨリ買入 持主 何ノ 某

一牡 河毛何歳 力用 何ノ 某

○明治何年何月何國何郡何村何某へ賣却鑑札返納

同年何月何駒場ニ於テ同上 同 何ノ 某

一牡 何毛何歳 農用 何ノ 某

同年何月何駒場ニ於テ同上 同 何ノ 某

一牝 何毛何歳 繁殖用 何ノ 某

明治何年何月出生 持主 何ノ 某

一牝 何毛何歳 農用 何ノ 某

○明治何年何駒場ニ於テ何郡何村何某へ糶賣鑑札返納

同年何月出生 同 何ノ 某

一牡 何毛何歳 同 何ノ 某

○明治何年何駒場ニ於テ繁殖用ニ賣渡ニ付鑑札返納

同年何月出生 同 何ノ 某

一牡 何毛何歳 同 何ノ 某

○明治何年何駒場ニ於テ持主糶取ニ付買入ノ部ニ付替鑑札引替和渡ス

明治十四年十二月三十一日調査現在

戸長ノ印以下同シ

合牛數何十頭 内牝〇何十頭

二歳以上〇何頭 内牝〇何頭

當 歳〇何頭 内牝〇何頭

内 譯

力用○何頭 内牝○何頭  
二歳以上

農用○何頭 内牝○何頭

内 二歳以上○何頭 内牝○何頭  
當 歳○何頭 内牝○何頭

繁殖用○何頭 内牝○何頭  
○何頭 ○何頭 ○何頭

〔馬籍帳ニハ除ク〕  
乳用 何頭 牝

二歳以上

明治十五年

何國何郡何村何ノ某ヨリ買受

一牡 何毛何歳 力用

何村何某ヨリ買受

持主

何ノ某

持主

一牡 何毛何歳 農用

○明治何年何郡何村何某へ賣却鑑札返納

何郡何村町何某ヨリ産牛馬組合醸集金ヲ以テ買受

預リ人

何ノ某

一牡 何毛何歳 繁殖用

持主

何ノ某

一牝 何毛何歳 乳用

同

何ノ某

一牡 何毛何歳 農用

同

○農商工



一牡 何毛何歲 方用

何月出生

何ノ某

一牡 何毛何歲 農用

同

何ノ某

○何月斃死檢査濟鑑札返納

何月出生

同

何ノ某

一牝 何毛當歲 同

明治十五年十二月三十一日調査現在

合牛數何十何頭 內牝 何十何頭

二歲以上○何十頭 內牝 何十何頭

當 歲何 頭 內牝 何十何頭

內 譯

○何頭 內牝○何頭 明治十五年買入並出生

內

○何頭 內牝○何頭 買入

二歲以上

○何頭 內牝○何頭 出生

當 歲

外

○何頭 內牝○何頭 明治十五年賣却及屠殺斃死

內

二歲以上○何頭

當 歲○何頭 內牝○何頭

內

○何頭 內牝○何頭 賣却

二歲以上○何頭

當 歲○何頭 內牝○何頭

內

○農商工

○何頭 内 牝 〇何頭

屠殺  
「馬籍帳ニハ屠殺ヲ除ク」

二歳以上

斃死

○何頭 内 牝 〇何頭

内 牝 〇何頭

差引何頭

内 牝 〇何頭

内

二歳以上 〇何頭

内 牝 〇何頭

當 歳 〇何頭

内 牝 〇何頭

此内譯

力用 〇何頭 内 牝 〇何頭

内

二歳以上 〇何頭 内 牝 〇何頭

營 歳 〇何頭 内 牝 〇何頭

農用 〇何頭 内 牝 〇何頭

内

二歳以上 〇何頭

當 歳 〇何頭

繁殖用 〇何頭 内 牝 〇何頭

二歳以上

乳用 〇何頭 牝

二歳以上

馬籍帳ニハ乳用ヲ除ク

明治十六年

以下之ニ倣ヒ増減ヲ加除シ置キ年々十二月三十一日現在ノ合計ヲ付スヘシ

外種ノ部

○農商工

役戸

明治何年何駒場ニ於テ何郡何村何某ヨリ糶取 持主

一 一回雜種牝何毛何歳 力用 「力用トハ特ニ物貨運搬乗用車用等ニ役スルヲ云フ」 何ノ 某

「一回雜種トハ内國種ノ牝ニ純 粹洋種ノ牝ヲ配シ得タル者」

○明治何年何月何國何郡何村何某ヘ賣却鑑札返納 「戸長ノ印以下減スルモノ總テ同シ」

明治何年何國何郡何村何某ヨリ買受 同

一 二回雜種牝何毛何歳 農用 何ノ 某

「二回雜種トハ一回雜種ノ牝ニ 洋種ノ牝ヲ配シ得タルモノ」 「農用トハ耕作ニ役スルヲ云フ 力用農用相兼ヌルモノハ宜ク 其重ナル方ニ從フヘシ」

明治何年拜借 預リ人

一 三回雜種牝何毛何歳 繁殖用 何ノ 某

「三回雜種トハ二回雜種ノ牝ニ 洋種ノ牝ヲ配シ得タルモノ」 「繁殖用トハ即繁殖ヲ圖ル爲メニ使用ニ供セス飼養スルモノ」

明治何年何國何郡何村何某ヨリ買受 持主

一 四回雜種牝何毛何歳 乳用 「馬籍ニ乳用ヲ除ク」 何ノ 某

「四回雜種トハ三回雜種ノ牝ニ 洋種ノ牝ヲ配シ得タルモノ」 「乳用トハ特ニ搾乳ノ爲ニ飼養スルモノ」

馬籍ニハ屠殺ヲ除ク

○明治何年何月屠殺鑑札返納

明治何年何郡何村何某ヨリ買入 持主

一 五回雜種牝何毛何歳 力用 何ノ 某

「五回雜種トハ四回雜種ノ牝ニ 洋種ヲ配シ得タルモノ」

明治何年何月何郡何村何某ヘ賣却鑑札返納

明治何年何國何郡何村何某ヨリ買受 持主

一 改良種牝何毛何歳 乳用 何ノ 某

「改良種トハ六回ニ至リ タルヲ云フ」

明治何年何郡何村何某ヨリ買入 持主

「テボン種ハ馬籍ニ不用」 何ノ 某

「テボン種一回雜種牝何毛何歳 農用」 「テボン種何回雜種トハ牝牡洋種ニシテ例ヘハ短角種ノ 牝ニテボン種ノ牝ヲ配シ得タルモノノ類ヲ云フ」

五回迄前ニ同シ

明治何年何國何村何某ヨリ買入 持主

「同」 何ノ 某

「テボン種改良種牝何毛何歳 力用」 「テボン種改良種トハ六回ニ至リタルヲ云フ」

○明治何年何月斃死検査済鑑札返納

明治何年何郡何村何ノ某ヨリ買入

持主

一和洋一回雜種牝何毛何歳 乳用

何ノ某

「和洋一回雜種トハ内國種ノ牝ニ血統ノ正確ナラサル洋種ノ牝ヲ配シテ得タルモノヲ云フ

五回迄前ニ同シ

明治何年何郡何村何某ヨリ買入

持主

一和洋改良種牝何毛何歳 繁殖用

何ノ某

「和洋改良種トハ六回ニ至リタルヲ云フ

○明治何年何月何郡何村何某へ賣却鑑札返納

明治何年何郡何村何某ヨリ買入

持主

一退却雜種牝何毛何歳 力用

何ノ某

「退却雜種トハ一回雜種ノ牝ニ内國種ノ牝ヲ配シ又ハ二回雜種ノ牝ニ一回雜種ノ牝ヲ配シテ得タルモノノ類ヲ云フ

明治何年何月何母何々ヨリ出生

持主

一何回雜種牝當歳 力用

何ノ某

○明治何年何月何駒場ニ於テ何國何郡何村何某へ羅賣鑑札返納

何年何月何母何ヨリ出生

同

一デボン種何回雜種牝當歳 農用

何ノ某

○同上

何年何月何母何々ヨリ出生

持主

一改良種牝何毛當歳 繁殖用

何ノ某

○明治何年何月何斃死検査済鑑札返納

何年何月何母何々ヨリ出生

同

一退却雜種牝何毛當歳 繁殖用

何ノ某

○明治何年何月何駒場ニ於テ持主羅取ニ付買入ノ部ニ付替鑑札引替渡ス

明治十四年十二月三十一日調査現在

合牛數何十頭 内牝〇何頭

二歳以上〇何頭 内牝〇何頭

内 當 歳〇何頭 内牝〇何頭

内譯

一回雜種○何頭	内	二當	以上	○何頭
内 牝○何頭	内	二當	以上	○何頭
内 牡○何頭	内	二當	以上	○何頭
内譯	内	二當	以上	○何頭

力 用○何頭

内 二當 以上 何頭

内 牝○何頭

内 二當 以上 何頭

内 牡○何頭

内 二當 以上 何頭

農 用○何頭

内 二當 以上 何頭

内 牝○何頭

内 二當 以上 何頭

内 牡○何頭

内 二當 以上 何頭

繁殖用○何頭

内 二當 以上 何頭

内 牝○何頭

内 二當 以上 何頭

乳 用○何頭

牝二歳以上

二回雜種○何頭

内 二當 以上 何頭

内 牝○何頭

内 二當 以上 何頭

内 牡○何頭

内 二當 以上 何頭

三回雜種

内譯前ニ同シ

四回雜種

内譯前ニ同シ

五回雜種

内譯前ニ同シ

改良種

内譯前ニ同シ

デボン種一回雜種

内譯前ニ同シ

デボン種馬籍帳ニハ不用

同二回雜種 同上  
 內譯前ニ同シ  
 同三回雜種 同上  
 內譯前ニ同シ  
 同四回雜種 同上  
 內譯前ニ同シ  
 同五回雜種 同上  
 內譯前ニ同シ  
 同改良種 同上  
 內譯前ニ同シ  
 和洋一回雜種  
 內譯前ニ同シ  
 同二回雜種 同上  
 內譯前ニ同シ  
 同三回雜種 同上  
 內譯前ニ同シ  
 同四回雜種 同上

內譯前ニ同シ

同五回雜種

內譯前ニ同シ

同改良種

內譯前ニ同シ

退却雜種

內譯前ニ同シ

明治十五年

何國何郡何町何某ヨリ買入

一何回雜種何毛何歳 農用

何郡何村何某ヨリ買入

一何々何回雜種何毛何歳 乳用

何郡何町何某ヨリ買入

二改良種何毛何歳 力用

何郡何村何市場ニ於テ何村何某ヨリ買入

一和洋何回雜種何毛何歳 繁殖用

明治何年何月父何々ヨリ出生

持主 何ノ 某  
 持主 何ノ 某  
 持主 何ノ 某  
 持主 何ノ 某  
 持主 何ノ 某  
 持主 何ノ 某  
 持主 何ノ 某  
 持主 何ノ 某

一退却雜種牝何毛何歲	繁殖用	持	何	ノ	某
明治何年何月父何々	ヨリ出生	持	何	ノ	某
一何回雜種牝何毛當歲	力用	持	何	ノ	某
明治何年何月母何々	ヨリ出生	持	何	ノ	某
一何回雜種牝何毛當歲	農用	持	何	ノ	某
明治何年何月父何々	ヨリ出生	持	何	ノ	某
一何々何回雜種牝何毛當歲	力用	持	何	ノ	某
明治何年何月母何々	ヨリ出生	持	何	ノ	某
一和洋何回雜種牝何毛當歲	乳用	持	何	ノ	某
明治何年何月父何々	ヨリ出生	持	何	ノ	某
一改良種牝何毛當歲	繁殖用	持	何	ノ	某
以下總テ之ニ做フ					
明治十五年十二月三十一日調査現在					
合牛馬數何十何頭	內牝				
羊豚數何十何頭	內牝				
二歲以上何頭	內牝				
常歲何頭	內牝				

何十頭	內牝	何頭	明治十五年買入並出生
何頭	內牝	何頭	買入
二歲以上	何頭	何頭	出生
何頭	內牝	何頭	出生
當歲	何頭	何頭	
外	何頭	何頭	明治十五年賣却及屠殺斃死
何頭	內牝	何頭	
內	何頭	何頭	
二歲以上	何頭	何頭	
當歲	何頭	何頭	
何頭	內牝	何頭	賣却
內	何頭	何頭	
二歲以上	何頭	何頭	
當歲	何頭	何頭	





二回雜種何頭  
 内譯外書共前ニ同シ  
 三回雜種  
 内譯外書共前ニ同シ  
 四回雜種  
 内譯外書共前ニ同シ  
 五回雜種  
 内譯外書共前ニ同シ  
 改良種  
 内譯外書共前ニ同シ  
 デボン種一回雜種  
 内譯外書共前ニ同シ  
 同二回雜種  
 内譯外書共前ニ同シ  
 同三回雜種  
 内譯外書共前ニ同シ  
 同四回雜種  
 内譯外書共前ニ同シ

内譯外書共前ニ同シ  
 同五回雜種  
 内譯外書共前ニ同シ  
 同改良種  
 内譯外書共前ニ同シ  
 和洋一回雜種  
 内譯外書共前ニ同シ  
 同二回雜種  
 内譯外書共前ニ同シ  
 同三回雜種  
 内譯外書共前ニ同シ  
 同四回雜種  
 内譯外書共前ニ同シ  
 同五回雜種  
 内譯外書共前ニ同シ  
 退却雜種  
 内譯外書共前ニ同シ

明治十六年

以下徴之増減ヲ加除シ置キ年々十二月三十一日現在ノ合計ヲ付スヘシ

第二號

明治何年ヨリ

何郡何町羊籍帳  
何區何村豚籍帳

戸長役場

鑑札ノ押切以下徴之

内種ノ部

明治何年買入

一牝豚 何歳

明治何年買入

一牡豚 何歳

○明治何年何月何國何郡何町何ノ某ハ賣却鑑札返納  
「月長ノ印以下徴之」

羊籍帳ニハ内外種ノ區別ニ及ハス

持主

何ノ某

同

何ノ某

戸長役場

明治何年買入

一同 何歳

明治何年買入

一同 何歳

○明治何年何月屠殺鑑札返納

明治何年買入

一牝豚 何歳

○明治何年何月斃死検査済鑑札返納

明治何年買入

一牝豚 何歳

○明治何年何月斃死検査済鑑札返納

何年出生

一牡豚 當歳

何月出生

一牝豚 當歳

明治十四年十二月三十一日現在

合豚數何頭 内牝〇何頭  
牡〇何頭

持主

何ノ某

同

何ノ某

持主

何ノ某

持主

何ノ某

持主

何ノ某

持主

何ノ某

同

何ノ某

○農商工

內 二歲以上○何頭 內 牝○何頭  
 當 歲○何頭 內 牝○何頭  
 明治十五年 內 牝○何頭  
 買入 明治十五年  
 一牡豚 何歲 持主 何 某  
 ○明治何年何月屠殺鑑札返納  
 同 同 何 某  
 一牝豚 何歲 同 何 某  
 何月出生 同 何 某  
 一牡豚 當歲 持主 何 某  
 ○明治何年何月何國何郡何町何某へ賣渡鑑札返納  
 何月出生 持主 何 某  
 一牡豚 當歲 持主 何 某  
 明治十五年十二月三十一日調査現在  
 合豚數何頭 內 牝○何頭 某

內 二歲以上○何頭 內 牝○何頭  
 當 歲○何頭 內 牝○何頭  
 ○何頭 內 牝○何頭 明治十五年買入並出生  
 內 二歲以上○何頭 內 牝○何頭  
 當 歲○何頭 內 牝○何頭  
 內 二歲以上○何頭 內 牝○何頭  
 當 歲○何頭 內 牝○何頭  
 ○何頭 內 牝○何頭 買入  
 內 二歲以上○何頭  
 當 歲○何頭  
 ○何頭 內 牝○何頭 出生  
 外 ○何頭 內 牝○何頭 明治十五年賣却並屠殺斃死  
 ○何頭 內 牝○何頭

内 二歳以上 ○何頭 内 牝 牝 ○何頭 賣却  
 常 歳 ○何頭 内 牝 牝 ○何頭  
 内 ○何頭 内 牝 牝 ○何頭  
 内 二歳以上 ○何頭 内 牝 牝 ○何頭  
 常 歳 ○何頭 内 牝 牝 ○何頭  
 ○何頭 内 ○何頭 屠殺  
 内 二歳以上 ○何頭 内 牝 牝 ○何頭  
 常 歳 ○何頭 内 牝 牝 ○何頭  
 ○何頭 内 牝 牝 ○何頭 斃死  
 内 二歳以上 ○何頭 内 牝 牝 ○何頭  
 常 歳 ○何頭 内 牝 牝 ○何頭  
 外種ノ部 内 牝 牝 ○何頭

鑑札ト押切以下做之

役戸

明治何年買入 持主  
 一回雜種牝豚 何歳 何ノ某  
 同 雜種ノ區別説明ハ牛馬籍帳ト全シキヲ以テ略ス  
 同 一回雜種牝豚 何歳 何ノ某  
 明治何年拜借 預リ人  
 一回雜種牝豚 何歳 何ノ某  
 同 明治何年何國何郡何村何ノ某へ賣却鑑札返納  
 同 一回雜種牝豚 何歳 何ノ某  
 明治何年買入 持主  
 一回雜種牝豚 何歳 何ノ某  
 同 明治何年何月屠殺鑑札返納  
 同 一回雜種牝豚 何歳 何ノ某  
 改良種牝豚 何歳 何ノ某  
 同 一回雜種牝豚 何歳 何ノ某  
 和洋一回雜種牝豚 何歳 何ノ某

農工

○明治何年何月斃死検査済鑑札返納

明治何年拜借 何歳

一同二回雜種牝豚

明治何年買入 何歳

一同三回雜種牡豚 何歳

○明治何年何月何郡何村何某(賣却鑑札返納)

一同四回雜種牡豚 何歳

明治何年出生

一同五回雜種牝豚 當歳

○明治何年何月斃死検査済鑑札返納

一同改良種牡豚 當歳

○明治何年何月何村何某(賣却鑑札返納)

一同洋種牡豚 當歳

同	同	同	同	同	持	預
	何	何	何	何	主	人
	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ
	某	某	某	某	某	某

一退却雜種牡 當歳

以下做之

何ノ某

明治十四年十二月三十一日調査現在

合羊 數何十何頭 内 牝何頭

二歳以上○何頭 内 牝何頭

當 歳○何頭 内 牝何頭

此内譯

一回雜種○何頭 内 牝何頭

二歳以上○何頭 内 牝何頭

當 歳○何頭 内 牝何頭

二回雜種○何頭 内 牝何頭

二歳以上○何頭 内 牝何頭

當 歳○何頭 内 牝何頭

三回雜種

○農商工

四百七十七

内譯前ニ同シ  
 四回雜種  
 内譯前ニ同シ  
 五回雜種  
 内譯前ニ同シ  
 改良種  
 内譯前ニ同シ  
 和洋一回雜種  
 内譯前ニ同シ  
 同二回雜種  
 内譯前ニ同シ  
 同三回雜種  
 内譯前ニ同シ  
 同四回雜種  
 内譯前ニ同シ  
 同五回雜種  
 内譯前ニ同シ

同改良種  
 内譯前ニ同シ  
 洋種  
 内譯前ニ同シ  
 退却雜種  
 内譯前ニ同シ  
 明治十五年  
 買入  
 一何回雜種牝豚 何歳  
 同  
 一何回雜種牡豚 何歳  
 ○何月屠殺鑑札返納  
 拜借  
 一和洋何回雜種牡豚 何歳  
 買入  
 一同何回雜種牝豚 何歳  
 出生

持主 何ノ 某  
 持主 何ノ 某  
 預ッ人 何ノ 某  
 持主 何ノ 某  
 持主 何ノ 某

一同改良種牝豚 當歲

○何月斃死檢査濟鑑札返納

同

一洋種牝 當歲

同

一退却雜種牝 當歲

同

一改良種牝 當歲

明治十五年十二月調査現在

合豚數何十何頭 內牝○何頭

內

二歲以上○何頭

內牝○何頭

當 歲○何頭

內牝○何頭

內

何頭 內牝○何頭

明治十五年買入並出生

何ノ某

同 何ノ某

同 何ノ某

同 何ノ某

內 二歲以上○何頭 內牝○何頭

○何頭 內牝○何頭 買入

內 二歲以上○何頭 內牝○何頭

當 歲○何頭 內牝○何頭

何頭 內牝○何頭 出生

外 二歲以上○何頭 內牝○何頭

○何頭 內牝○何頭 明治十五年賣却並屠殺斃死

內 二歲以上○何頭 內牝○何頭

○農商工

内

○何頭 内牝○何頭

賣却

内 二歲以上○何頭

内牝○何頭

内 當 歲○何頭

内牝○何頭

○何頭 内牝○何頭

屠殺

内 二歲以上○何頭

内牝○何頭

内 當 歲○何頭

内牝○何頭

(朱書)

斤量○何十何斤

但一斤百六十目

代○價何拾何圓

但一斤代價金何圓

剪毛○何十何斤

但一斤百六十目

代○價何拾何圓

但一斤代價金何圓

「羊籍帳ニハ朱書ノ通斤量等ヲ記載スヘシ

○何頭 内牝○何頭 斃死

内 二歲以上○何頭 内牝○何頭  
當 歲○何頭 内牝○何頭

(朱書)

剪毛○何十何斤

但一斤百六十目

代價○何拾何圓

但一斤代價金何圓

「羊籍帳ニハ朱書ノ通記載スヘシ

此内譯

一回雜種何程 内牝○何頭

内 二歲以上○何頭 内牝○何頭  
當 歲○何頭 内牝○何頭

内 ○何頭 内牝○何頭 明治十五年買入並出生

内 二歲以上○何頭 内牝○何頭  
當 歲○何頭 内牝○何頭



○何頭 內牝 ○何頭 買入  
 內 二歲以上 ○何頭 內牝 ○何頭  
 當 歲 ○何頭 內牝 ○何頭  
 何頭 內牝 ○何頭 出生  
 內 二歲以上 ○何頭 內牝 ○何頭  
 當 歲 ○何頭 內牝 ○何頭  
 外 ○何頭 內牝 ○何頭 明治十五年賣却並屠殺斃死  
 內 二歲以上 ○何頭 內牝 ○何頭  
 當 歲 ○何頭 內牝 ○何頭  
 內 ○何頭 內牝 ○何頭 賣却  
 內 二歲以上 ○何頭 內牝 ○何頭

當 歲 ○何頭 內牝 ○何頭  
 ○何頭 內牝 ○何頭 屠殺  
 內 二歲以上 ○何頭 內牝 ○何頭  
 當 歲 ○何頭 內牝 ○何頭

(朱書)

斤量 ○何斤 但一斤百六十目  
 此代價 ○何圓 但一斤代價金何圓  
 剪毛 ○何斤 但一斤百六十目  
 此代價 ○何圓 但一斤代價金何圓

「羊籍帳ニ、朱書ノ通斤量ヲ記載スヘシ

○何頭 內牝 ○何頭 斃死  
 內 二歲以上 ○何頭 內牝 ○何頭  
 當 歲 ○何頭 內牝 ○何頭

(朱書)

剪毛〇何斤

此代價〇何圓

「羊籍帳前同斷

但一斤百六十目

但一斤代價金何圓

二回雜種

內譯外書共前ニ同シ

三回雜種

內譯外書共前ニ同シ

四回雜種

內譯外書共前ニ同シ

五回雜種

內譯外書共前ニ同シ

改良種

內譯外書共前ニ同シ

洋和一回雜種

內譯外書共前ニ同シ

同二回雜種

內譯外書共前ニ同シ

同三回雜種

內譯外書共前ニ同シ

同四回雜種

內譯外書共前ニ同シ

同五回雜種

內譯外書共前ニ同シ

同改良種

內譯外書共前ニ同シ

洋種

內譯外書共前ニ同シ

退却雜種

內譯外書共前ニ同シ

明治十六年

以下年々前ニ同シ

第三號

〇農商工

戸長役場ノ印籍帳ト押切

内外種ノ區別ハ肩書ニ記入ス外種ハ外種何々雜種ト記載スヘシ  
堅四寸五分

第何號

印長

牛馬ノ鑑札ハハ農力繁殖乳用ノ譯チ毛歳ノ下ニ掲記スヘシ

牝牛  
牡羊

何

毛

何年何月  
出生讓受

何郡何村持主

何ノ

某

牛馬ノ鑑札ハハ農力繁殖乳用ノ譯チ毛歳ノ下ニ掲記スヘシ

表

裏

何村戸長役場

印

第四號

内種ノ區別肩書ニ記載スヘシ尤モ外種ハ何々雜種ト記スヘシ

送狀

戸長ノ印

牛馬羊豚  
帳ト割印

牝牛  
牡羊

何毛何歳

宮城縣下何郡何村

賣人 何ノ 某

全縣下何郡何村

買人 何ノ 某

右ハ今回(賣渡)讓渡候ニ付(牛馬)籍ヲ除キ送狀差出候也

戸長

年月日

何ノ 某〇

第五號ハ二十三年二月報告例發布ニ付略ス

農商工

牛馬送狀ニハ農力繁殖乳用ノ譯ヲ毛歳ノ下ニ記載スヘシ  
但馬ノ送狀ハ乳用ヲ除ク

○甲第四十六號

明治十八年五月六日

米商組合規程左ノ通相定候條本年六月三十日限り申出認可ヲ受クヘシ

第一條 米商ヲ營ムモノハ最寄町村聯合組合ヲ設置スヘシ

第二條 組合ノ名稱ハ何地米商組合ト稱スヘシ

第三條 組合ハ左ノ條項ニ依テ規約ヲ定メ郡區役所ヲ經テ縣廳ノ認可ヲ受クヘシ

第一項 米質ノ善惡製法ノ精粗ニ由テ價格等差ヲ定ムル事

第二項 米製粗惡又ハ不正ノ所爲アルモノハ他方ニ輸出セサル事

第三項 他方ニ輸出スルモノハ俵造ヲ完全ニシ必ス四斗入ト定ムル事

第四項 役員ノ選舉法及其權限ノ事

第五項 費用徵收方法ノ事

第六項 會議ニ關スル規程ノ事

第七項 違約者處置方法ノ事

右ノ外組合ニ於テ必要トスル事項

第四條 各組合聯合シ便宜ノ地ニ取締所一ヶ所ヲ設ケ規約ヲ定メ縣廳ノ認可ヲ受クヘシ

但組合及取締所ノ役員ハ其重立タル者ニ限り互選ノ上縣廳ノ認可ヲ受クヘシ

第五條 取締所ニ於テハ各組合輸出米ヲ検査スルノ方法ヲ設クヘシ

廿年(六月)  
縣令第六十  
二號ヲ以テ  
追加  
第四條但書

第六條 組合規約ニ違背シタル者アルトキハ其姓名事由ヲ取調郡區役所ヲ經テ縣廳

ニ申出ヘシ

右布達候事

○甲第四十七號

明治十八年五月十五日

同業組合ヲ設ケントスルキハ左ノ準則ニ據ルヘシ

但蠶系改良組合米商組合沿海水産組合ハ此限ニアラス

第一條 農商工ノ業ニ從事スルモノニシテ同業者或ハ其營業上ノ利害ヲ共ニスル者

組合ヲ設ケントスルキハ適宜ニ地區ヲ定メ其地區内同業者四分ノ三以上ノ同意ヲ

以テ規約ヲ作り郡區役所ヲ經テ縣廳ノ認可ヲ請フヘシ

第二條 同業組合ハ同盟中營業上ノ弊害ヲ矯メ其利益ヲ圖ルヲ以テ目的トナスヘシ

第三條 同業組合ノ規約ヲ掲クヘキ事項ハ左ノ如シ

第一項 組合ヲ組織スル業名及組合ノ名稱

第二項 組合ノ地區及事務所ノ位置

第三項 目的及方法

第四項 役員ノ選舉方法及權限

第五項 會議ニ關スル規程

第六項 加入者及退去者ニ關スル規程

本年(十一月)  
甲第八一  
月十六號  
ヲ以テ  
追加

第七項 費用ノ徴收及賦課法

第八項 違約者處分ノ方法

右ノ外組合ニ於テ必要ト爲ス事項

第四條 組合ノ設有ル地區内ニ於テ組合員ト同業ヲ營ム者ハ其組合ニ加盟スヘシ  
但事業ノ規模及趣向ヲ異ニスルカ爲メ加盟シ難キカ或ハ加盟ヲ拒ムヘキ事情アルキハ縣應ニ申出テ其認定ヲ請フヘシ

第五條 同業組合ハ同業組合ノ資格ヲ以テ營利事業ヲ爲スコトヲ得ス

第六條 同業組合ハ總テ其事蹟及費用決算表ヲ毎年縣應ニ報告スヘシ

第七條 規約ヲ改正スルキハ更ニ認可ヲ請フヘシ

第八條 分立又ハ合併スルキハ更ニ規約ヲ作リ認可ヲ請フヘシ

第九條 同業組合ニ於テ聯合會ヲ設ケ其規約ヲ作ルキハ郡區役所ヲ經テ縣應ノ認可ヲ請フヘシ

第十條 組合規約ニ違背シタル者アルキハ其姓名事由ヲ取調郡區役所ヲ經テ縣應ニ申出ヘシ

右布達候事

○甲第五十七號

明治十八年六月二十五日

○甲第五十七號 暨麴(麴室共)及酒造營業者ニシテ米穀ヲ購入スル者又ハ米商人ニアラサルモ米穀ヲ

本年(十二年)九月  
第十號ヲ以テ  
十月廿二日

本年(十二年)三月  
第十號ヲ以テ  
四月廿二日

本縣外ニ輸出販賣スル者ハ本年甲第四十六號布達米商組合ニ加入スヘシ  
但暨麴及酒造營業者ハ別ニ組合ヲ設ケ其規約ヲ結ヒ縣應ノ認可ヲ受ケタルキハ此限ニアラス

○甲第八十五號

明治十八年十一月十六日

米商營業願及廢業屆ハ自今米商組合頭取ノ連書ヲ以テ差出スヘシ

右布達候事

○丙第五號

明治十九年二月五日

郡區

種牡牛馬ハ別紙様式ニ倣ヒ毎年十二月三十一日現在ノ頭數ヲ取調翌年一月限リ差出ス可シ

明治種牡馬頭數表

郡村名 (〇ハ朱書)

種	類	年齡寸	尺毛色	産	地	畜養地名	所有者住所姓名
内國種又ハ洋種	何歲何尺何寸何毛	何國何郡區何町	何國何郡區何町	何國何郡區何町	何國何郡區何町	何國何郡區何町	何國何郡區何町
乗用農用等	、、、、、、、、、、	、、、、、、、、、、	、、、、、、、、、、	村又ハ何牧場	村又ハ何牧場	村又ハ何牧場	何
合計	、、、、、、、、、、	、、、、、、、、、、	、、、、、、、、、、	、、、、、、、、、、	、、、、、、、、、、	、、、、、、、、、、	、、、、、、、、、、

○農商工

四百九十三

明治何年種牡牛頭數表

郡村名 (〇ハ朱書)

種	類	年齢	寸	尺	毛色	産	地	畜養	地名	所有者住所姓名
内國種又ハ短角種 種デボン種等		何歲	何尺	何寸	何毛	何國何郡區何町 村又ハ何牧場	何國何郡區何町 村又ハ何牧場	何國何郡區何町 村又ハ何牧場	何國何郡區何町 村又ハ何牧場	何國何郡區何町 村又ハ何牧場
、、、、、、	、、	、、	、、	、、	、、	、、、、、、	、、、、、、	、、、、、、	、、、、、、	、、、、、、
合計										

明治十九年三月五日

〇甲第十三號

種牡牛馬取締規則左ノ通相定ム

種牡牛馬取締規則

第一條 凡種牡牛馬ハ左ノ諸項ニ依リ係員檢定シタルモノニ限ルヘシ

但檢査合格ノモノハ左脚部ニ(み)ノ烙印ヲ爲スヘシ

一 種牡牛馬ハ産地血統正シク且強壯ニシテ骨格善良ナル者

一 種牡牛ハ滿二歲以上十歲以下(洋種ハ十歲以上ニ至ルモ妨ナシ)身丈ケ三尺五寸以上ノモノ

一 種牡馬ハ滿四歲以上十六歲以下(洋種ハ十六歲以上ニ至ルモ妨ナシ)身丈ケ四尺六寸以上ノモノ但十六歲以上ト雖モ特ニ強壯ニシテ骨格完備駿良ナルモノ

ハ採用スルコトアルヘシ

一 遺傳病若クハ惡癖等ナキモノ

第二條 種牡牛馬ノ檢査ハ每年春秋二回トス其場所時日ハ該係員ヨリ報告スヘシ若シ指定ノ場所時日ニ牽出シ難キトキハ保證人二名以上ヲ立其事由ヲ詳悉シ係員ニ届出其指揮ヲ受クヘシ

第三條 種牡牛馬ノ放牧ハ每年清明ノ當日ヨリ小暑ノ前日迄ニ限ルモノトス

第四條 種牡牛馬ハ本則ニ定ムル年齢ヲ超過スルカ或ハ斃死又ハ繁殖人預替其他事故アル時ハ所轄戶長役場及郡區役所ヲ經テ縣廳ニ届出ツヘシ

第五條 種牡牛馬疾病等ニ罹リタルトキハ速ニ獸醫ノ診察ヲ受ケ手當ヲナスヘシ此場合ニ於テハ其診察書ヲ添ヘ所轄戶長役場及郡區役所ヲ經テ縣廳ニ届出ツヘシ

第六條 種牡牛馬ハ常ニ飼養攝生ニ注意シ應分ノ運動外ハ使役スヘカラス

〇甲第二十六號 明治十九年四月十三日

田圃蟲害豫防規則左ノ通相定來ル五月一日ヨリ施行ス

田圃蟲害豫防規則

第一條 左ニ掲クル蟲類ハ平素作主ニ於テ豫防ニ注意シ若シ發生セシトキハ直ニ之ヲ驅除スヘシ

螟蟲 尺蠖(桑樹ヲ害スルモノ)

〇農商工

廿二年(四)月(縣令)第...  
以三十七號...  
以三十七號...

第二條 害蟲驅除豫防ノ爲メ一戸長役場所轄ノ町村ヲ以テ一驅蟲區ト定ム  
但仙臺區ハ該區内ヲ以テ一區トス

第三條 害蟲蔓延ノ徵アリト認ムルトキハ作主ヨリ直ニ戸長役場ニ届出ヘシ  
但本文ノ場合ニ於テハ戸長ハ郡區長及最寄警察署へ郡區長ハ縣廳ニ急報スヘシ

第四條 害蟲蔓延ノ場合ニ於テハ郡區長戸長及警察官吏ノ指揮ニ依リ一區又ハ數區  
聯合驅除ニ從事スヘシ

第五條 驅除豫防ニ要スル費用ハ一區若クハ數區聯合驅除ノ場合ニ限リ町村費ヲ以  
テ支辨スヘシ

第六條 郡區長ハ左ノ項目ニ依リ其都度害虫驅除豫防ノ顛末ヲ縣廳ニ届出ヘシ

- 一 害蟲發生及其撲滅年月日
- 二 害蟲種類及其名稱
- 三 被害反別及其損害見積額
- 四 豫防驅除執行ノ方法
- 五 費用仕拂額及其細目

第七條 第一條ニ掲ケサル害蟲ト雖モ臨時發生蔓延ノ徵アル時ハ此規則ニ依リ驅除  
豫防スルコトアルヘシ

第八條 本則第一條及第三條(但書ヲ除キ)ニ違背シタル者ハ一月以上十日以下ノ拘

二十年(十)月(縣令)第...  
以七十六號...  
以七十六號...

本年(十)月(縣令)第...  
以四十九號...  
以四十九號...  
以三十三號...  
以三十三號...  
以三十三號...

留ニ處シ又ハ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

○乙第二十二號 明治十九年四月十六日 郡區町村

甲第二十六號ヲ以テ田圃害虫豫防規則ヲ發布シタルニ付テハ郡區長及戸長ニ於テ平  
素豫防ニ注意シ豫防及驅除方法ノ實施ヲ要スルノ場合ニ於テハ詳細記述具申スヘシ

○縣令第三十六號 明治十九年十月十四日  
蠶糸業ニ關スル請願届書ハ自今現住地蠶糸組合頭取ノ連署ヲ以テ差出ス可シ

○縣令第三十七號 明治十九年十月十九日  
農商務省令第七號ニ基キ漁業組合設置規程左ノ通之ヲ定ム  
但明治十八年甲第八十三號布達ハ廢止ス

漁業組合設置規程

第一條 漁業水産動物採ニ從事スル者ハ適宜區畫ヲ定メ組合ヲ設ケ除弊興利ノ趣  
旨ニ基キ規約ヲ作り縣廳ノ認可ヲ請フヘシ  
但漁者僅少ニシテ他ノ漁場ニ關係セサル地ハ當廳ノ認定ヲ受ケ組合ヲ設置セサ  
ルコトヲ得

第二條 組合ハ營業ノ弊害ヲ矯正シ漁法ヲ改良シ總テ一般ノ利益ヲ増進スルヲ目的  
トス

第三條 組合ハ左ノ二類トス

○農商工

第一類 捕魚採藻 遠海漁業若クハ大地引 各其種類ニ從ヒ特ニ組合ヲ爲ス者  
 第二類 河海沼湖沿岸ノ地區ニ於テ各種ノ漁業ヲ混同シテ組合ヲ爲スモノ  
 第四條 前條第二類ノ漁業ニシテ漁場ノ相連帶スルモノハ必ス一組合ト爲スヘシ  
 第五條 組合ノ規約ニ掲クヘキ事項ハ左ノ如シ  
 一 組合ノ地區、名稱及事務所ノ位置  
 二 組合ノ目的  
 三 役員選舉法及權限  
 四 會議ニ關スル規程  
 五 加入者及退去者ニ關スル規程  
 六 違約者處分ノ方法  
 七 費用賦課及徵收方法  
 八 捕魚採藻ノ季節ヲ定ムル  
 九 漁具漁法及採藻ノ制限ヲ立ル  
 十 漁場區域ニ關スル  
 十一 前各項ノ外組合ニ於テ必要トスル事項  
 第六條 組合ハ規約ヲ更正シ若クハ其組合ヲ分立合併セントスルキハ當應ノ認可ヲ請フヘシ

第七條 組合ハ聯合會ヲ設ケ其規約ヲ作り若クハ之ヲ更正セントスルキハ當應ノ認可ヲ請フヘシ  
 第八條 二府縣以上ニ渉ル組合及聯合會ノ規約ハ其管轄應ヲ經テ農商務省ノ認可ヲ請フヘキモノトス  
 但規約ヲ更正シ若クハ其組合ヲ分立合併セントスルキモ亦本條ニ準スヘシ

第九條 二府縣以上ニ渉ル組合ハ便宜ノ地ニ事務所本部ヲ設ケ其他ハ每府縣事務所支部ヲ置クヘシ  
 但支部ハ組合ノ事情ニ依リ必要ナラサル場合ニ於テハ之ヲ置カサルヲ得

第十條 各組合ニ於テハ左ノ役員ヲ設クヘシ  
 組頭 一名  
 取締 二名以上

第十一條 組頭及取締ハ其組合内ニ於テ互選シ住所姓名ヲ具シテ當應ノ認可ヲ受クヘシ  
 第十二條 組合規約ニ違背シタル者アルキハ其姓名事由ヲ取調ヘ郡區役所ヲ經テ當應ニ報告スヘシ

第十三條 各組合ハ總テ前年度ノ事蹟及費用決算表ヲ毎年一月當應ニ報告スヘシ  
 第十四條 第一條ニ違背シタルモノハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ貳拾錢以



上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス

○縣令第五十六號

明治二十年六月十七日

明治十九年(八月)農商務省令第九號蠶種検査規則施行手續ヲ定ムルコト左ノ如シ

蠶種検査規則施行手續

第一條 蠶種検査規則ニ依リ蠶種ヲ製造シ及蠶種ヲ販賣スルカ爲メ鑑札ヲ受ケントスルモノハ第一號書式ニ依リ其(製造)(販賣)願書ヲ認メ戶長(區ハ區長)ノ與書ヲ受ケ郡區長ヲ經由シ之ヲ縣廳ニ差出スヘシ

第二條 蠶種製造者及蠶種販賣者改氏名又ハ鑑札ヲ遺失毀損シタルトキハ前條ノ手續ニ依リ書換又ハ再渡ヲ乞フヘシ

第三條 蠶種検査規則第十一條ニ依リ蠶種製造者及蠶種販賣者鑑札ヲ返納セントスル時ハ其願書ニ廢業寄留轉籍等ノ事由ヲ記シ戶長(區ハ區長)ノ與書ヲ受ケ郡區長ヲ經由シ之ヲ縣廳ニ差出ス可シ

第四條 蠶種販賣者行商セントスル時ハ鑑札ヲ携帶スヘシ

第五條 蠶種検査ハ左ノ三ヶ所ニ設ク  
但時宜ニ依リ派出ノ上検査ヲ爲スコトアル可シ

仙臺 角田 涌谷

第六條 蠶種検査規則第二條ニ依リ蠶種検査ヲ受ケント欲スル者ハ第二號書式ノ目

録ヲ作り之ヲ該蠶種ニ添ヘ検査所ニ差出ス可シ

第七條 検査ヲ受ク可キ蠶種ハ適宜ノ器物ニ入レ損傷ノ患ナカラシム可シ

第八條 蠶種検査期日春蠶種及初度夏蠶種ハ毎年十月一日ヨリ夏蠶種ハ六月十五日ヨリ秋蠶種ハ八月十日ヨリ検査ヲ始ムルモノトス

第九條 蠶種検査規則第七條ニ依リ春蠶種ノ掃立枚數及製造額又ハ夏蠶種秋蠶種ノ掃立枚數及製造豫算額ヲ届出ントスル時ハ其願書ニ第三號書式ニ依リ蠶種ノ區別種類掃立枚數製造額ヲ記載シ戶長(區ハ區長)ノ與書ヲ取リ郡區長ヲ經由シ之ヲ縣廳ニ差出ス可シ

(書式第一號)

蠶種鑑札下附願

私儀

蠶種(製造又ハ販賣)仕度候間(製造販賣)鑑札御下附被成下度此段奉願候也

郡區町村番地

年月日

氏名

宮城縣知事宛

前書ノ通願出候ニ付與印候也

戶長 氏名

○農商工



廿三年(五月)縣令第一號ヲ以テ本令第一條中十五字ヲ削除セ

廿四年(十月)縣令第二十八號ヲ以テ第四項追加

出許可ヲ受ク可シ  
但本文ノ願書ニハ其地及隣接シタル所ノ地名字名ヲ詳記シ精細ナル圖面ヲ添フヘシ

鮪大網筒伏網其他建網類ノ構造及設置區域ハ從來ノ慣行ニ據ルヘシ若シ新設移轉又ハ構造ヲ變更伸縮セントスルトキハ詳細ノ圖面及事由書ヲ添へ前項ノ手續ニ依リ縣廳ニ願出許可ヲ受クヘシ

第二條 河海沼湖ノ水底ニ産置セル魚卵ハ總テ捕獲ヲ禁ス

第三條 左ニ掲クルモノヲ以テ漁業ヲ爲スヲ得ス

一 潜水器械

二 火藥類

三 注毒(山椒及其他ノ藥品ヲ流下スル類ヲ云フ)

第四條 左ノ漁具ハ總テ使用ヲ禁ス

一 地獄網

二 五寸ノ間十七節已上ノ暗線網及縋網

三 チカ子(鮑ヲ捕フルノ具)

四 河川ニ於テ用ユル建網

第五條 左ノ漁具及漁業ハ其期限中之ヲ停止ス

廿六年(三月)縣令第三號ヲ以テ第二項追加  
廿四年(三月)縣令第三號ヲ以テ改正  
本年(四月)縣令第四號ヲ以テ第一號中第四項ヲ削除ス  
廿七年(五月)縣令第五號ヲ以テ第七號中第二項中第四字ヲ削除ス

但阿武隈川館矢間村姥石上流ハ此限リニアラス

一 待網(待網又ハ「モツバ」トモ云フ) (四月一日ヨリ六月三十日マテ)

二 篠漬 (五月一日ヨリ七月三十一日マテ)

三 鮭(魚兒モ同シ) (二月一日ヨリ八月三十一日マテ)

五 鮎 (二月一日ヨリ六月三十日マテ)

六 鮑 (八月一日ヨリ十月十五日マテ)

七 海鼠 (三月十一日ヨリ六月二十日マテ)

第六條 漁具ノ全水面ニ及スモノ及流域ヲ妨クルノ漁業ハ總テ之ヲ禁ス

但縣廳ニ於テ實際ニ害ナキモノト認め特ニ使用ヲ許可シタルモノハ此限ニアラス

第七條 左ニ掲クル各川ノ川口ヨリ上流百間及川口ヨリ海面百間四方ハ毎年九月一日ヨリ十二月三十一日マテ漁業ヲ停止ス

一 北上川(石巻口及追波口共)

二 阿武隈川 (荒濱口)

三 名取川 (閑上口)

四 小泉川 (小泉口)

第八條 捕魚採藻ノ業ヲ營ムモノハ其營業ニ關スル願書へ漁業組合組頭(組合ナキ

地ハ之ヲ要セスノ連署ヲ要ス可シ

第九條 此規則ニ於テ禁セサル所ノ漁具ト雖モ實際有害ノモノト認ムルキハ其使用ヲ禁スルコトアル可シ

第十條 本則第一條乃至第七條ノ規定ニ違背シタルモノハ三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

○縣令第十二號 明治二十一年二月十日

漁場取締規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

漁場取締規則

第一條 縣内縣外何人ヲ問ハス組合外ノ者從來ノ慣行特約ニ依リ捕漁採藻ノ業ヲ爲ス時ハ其地組合ノ規約ニ遵フ可シ

第二條 遊樂若クハ自用ノ爲メ魚具海藻ヲ捕採スル者ハ其地組合同規約ニ定メタル禁制限ノ事項ヲ遵守ス可シ

第三條 他府縣ノ沿海ニ到リ捕魚採藻ノ業ヲ爲ス者モ亦前二條ニ依ルヘシ

第四條 第一條第二條ニ違背シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス

○訓令第三十五號 明治二十一年五月一日 郡區町村

傳染病馬届出書式ヲ定ムルコト左ノ如シ

傳染病馬又ハ御届		全治		御届	
年	月	日	病名及輕重産	地牝	牡毛
			色年	齡	何郡何村町何番地
			畜主又ハ管理者	何	誰
			施療獸醫	何	誰

右之通届出候ニ付此段御届仕候也

年 月 日

知事宛

何郡何村(何村外何ヶ村)戸長何ノ誰印

○縣令第五十三號

明治二十二年六月二十九日

獸醫開業規程ヲ定ムルコト左ノ如シ

獸醫開業規程

第一條 獸醫ヲ開業セントスル者ハ其年月日族籍及開業地ノ郡市町村番地ヲ記シ獸醫開業免狀寫ヲ添郡市役所ヲ經縣廳ニ届出ツヘシ

第二條 左ニ該當スルルキハ其郡市役所ヲ經縣廳ニ届出ツ可シ

一 他府縣又ハ管内ノ他郡市町村へ轉籍寄留開業セントスル時及廢業スル時

一 他府縣又ハ管内ノ他郡市町村へ出張診察治療所ヲ設ケントスル時及之ヲ廢スル時

○農商工

五百七

第三條 業務上ニ關シ官署ニ差出ス可キ書面ニハ總テ獸醫ノ二字ヲ氏名ノ肩ニ記載ス可シ

第四條 自ラ診察セシ患畜ニ非サレハ藥劑ヲ投與スルヲ得ス

第五條 開業免狀ヲ有セサル者ニシテ治療ヲ代施セシムルヲ得ス

第六條 治療中ノ患畜ニシテ斃死セシ時ハ診斷書ヲ所有者或ハ管理者ニ交付ス可シ

第七條 治療中ノ患畜ニアラサルモ斃死後診斷書ヲ請求スル者アル時ハ速ニ死体ヲ檢案シ檢診書ヲ所有者或ハ管理者ニ交付ス可シ

第八條 開業獸醫ハ處法録ヲ製シ置患畜所有者或ハ管理者ノ住所氏名患畜ノ牝牡毛色年齢病名藥劑分量等ヲ詳記シ他日ノ考證ニ備フ可シ

第九條 傳染病蔓延ノ徵アリト認ムルトキハ直チニ縣廳及最寄警察署市役所町村役場へ届出可シ

第十條 治療セシ患畜ハ一ケ年分取纏メ翌年一月三十日限り別紙表式ニ據リ縣廳ニ届出可シ

附則

一 從來開業ノ獸醫ハ本規程第一條第二條ニ據リ七月三十日限り縣廳ニ届出可シ

(別紙表式)

明治何年 從何月 至何月 患畜治療表

病症類別	病畜種類頭數					計	全治數	未治數	斃死數
	牛	馬	羊	豕	犬				
呼吸器諸病									
循環器諸病									
消化器諸病									
泌尿器諸病									
生殖器諸病									
五臟器諸病									
皮膚諸病									
外傷諸病									
牛疫									
炭疽病									

皮疽及鼻疽																				
傳染性胸膜炎																				
傳染性瘰癧																				
計																				

右之通ニ候也

何都市町村番地

獸醫 何

謹

知事宛

○縣令第七號

明治二十三年二月十四日

明治二十一年四月縣令第三十號蠶糸業組合設置規程ヲ更正スルコト左ノ如シ  
但四月一日ヨリ施行ス

第一條 蠶糸業者ハ養蠶製糸ノ改良蕃殖ヲ計リ販路ヲ擴張シ及賣買ヲ正確ナラシムルノ目的ヲ以テ組合ヲ設ケ同業者ハ必ス之ニ加盟ス可シ但機械製糸場ハ管内ヲ通シ別ニ一組合ト爲スコトヲ得此場合ニ於テハ事業ノ規模及趣向ヲ異ニスルノ事由ヲ具シ特ニ縣廳ノ認定ヲ請ク可シ

第二條 此規程中蠶糸業者トアルハ養蠶製糸ノ業ヲナスモノ又ハ蠶種ヲ製造並ニ販賣スルモノ及蠶種繭糸ノ類ヲ賣買スル商人並ニ荷造問屋等ノモノヲ總稱ス

第三條 組合ノ區畫ハ一郡一市ヲ以テ區域トス但土地ノ情况及産額ノ多少ニ依リ本

條ニ依リ難キモノハ其事由ヲ具シ縣廳ノ認定ヲ請ク可シ

第四條 組合ハ何都市蠶糸業組合ト稱ス可シ

第五條 組合内便宜ノ地ニ事務所ヲ置キ其組合ニ關スル一切ノ事務ヲ整理ス可シ

第六條 縣下便宜ノ地ニ取締所ヲ置キ各組合ヲ統轄シ組合規約ノ實施ヲ監督ス可シ

第七條 組合ハ左ノ事項ニヨリ規約ヲ定メ縣廳ノ認可ヲ受ク可シ

第一項 蠶種生糸検査方法ヲ設クルコト

第二項 蠶種生糸検査證紙ヲ貼用スルコト

第三項 繭ハ春夏秋若クハ黃白ノ種類又ハ殺蛹法ノ異ナルモノヲ混淆セサルコト

第四項 繭ハ製糸ニ適シ最モ良好ナル種類ヲ育養スル事

第五項 桑樹ノ栽培蠶兒ノ養法ヲ善良ナラシメ兼テ蠶病ヲ豫防スル事

第六項 繭ノ貯藏法ヲ完全ナラシムル事

第七項 繭荷造ノ上ハ其組合ノ名稱及製造者若クハ取扱人ノ姓名ヲ記入シタル標章ヲ付シ賣買スル事

第八項 一捆ハ勿論一總若クハ一把中良否混淆等ノモノヲ製造販賣セサル事但等

級ヲ區分シ一捆トナシタルモノハ此限ニアラス

第九項 生糸ノ製造及結束ニ不正ノ重量ヲ附シ賣買セサル事

第十項 綾取アル揚柝ヲ用ヒ尺度ヲ一樣ナラシムル事

廿六年(三  
月)縣令第  
十九號ヲ以  
テ追加

廿六年(三  
月)縣令第  
十九號ヲ以  
テ削除

- 第九項 生糸ノ結束及綴ノ量目ヲ一樣ナラシムル事
- 第十項 提島田折返造等ノ生糸ヲ揚返サスシテ其儘改造販賣セサル事
- 第十一項 生糸荷造ノ上ハ其組合ノ名稱及製造者若クハ取扱人ノ姓名ヲ記入シタル標章ヲ付シ賣買スル事
- 第十二項 統計報告調査ノ法ヲ設クル事
- 第十三項 組合員ノ證標ニ關スル事
- 第十四項 役員選舉ノ方法及其權限處務順序ノ事
- 第十五項 會議ニ關スル規程
- 第十六項 違約者處分ノ方法
- 第十七項 經費ノ賦課徵收支出ノ方法
- 第十八項 前各項ノ外組合ニ於テ必用トスル事項
- 第八條 取締所ノ規約ハ左ノ事項ニ依リ第九條及第十條ニ定ムル取締所會議ニ於テ決定シ縣廳ノ認可ヲ請フ可シ
- 第二項 取締所位置
- 第三項
- 第四項 組合ニ關スル事務ノ處分及組合格約實施監督ノ方法

廿六年(九  
月)縣令第  
三十九號ヲ  
以テ第十條  
ヲ改正第十  
一條ヲ削除

- 第五項 役員ノ權限及處務規程
- 第六項 會議ニ關スル規程
- 第七項 違約者處分及紛議ヲ仲裁スルノ方法
- 第八項 經費賦課徵收支出ノ方法
- 第九項 統計編纂及通信報告ニ關スル方法
- 第十項 右ノ外必用トナス事項
- 第九條 取締所ノ組織及施設方法ヲ議定セシムル爲メ取締所會議々員ヲ置ク其議員ハ每郡市並ニ機械製系場組合員中ヨリ各一名ヲ選出ス可シ
- 第十條 議員ハ一郡市一名トス頭取ヲ以テ之レニ充ツ其機械組合ニ於テハ重役中ヨリ互選スヘシ
- 但一郡數組ニ涉ルモノハ抽籤ヲ以テ定ムヘシ
- 第十一條 議員ノ任期ハ二ケ年トシ滿期ノ年二月中ニ改選ス可シ但滿期ニ至リ再選スルヲ得
- 第十二條 組合取締所ニ於テハ相當ノ役員ヲ置キ諸般ノ事務ヲ擔任セシム可シ
- 第十三條 取締所ノ役員中重ナル者ハ取締所會議々員ニ於テ各組合員中ヨリ選出シ縣廳ノ認可ヲ請フ可シ但時宜ニ依リ組合員外ヨリ選出スルコトヲ得
- 第十四條 組合役員ノ内其重ナルモノハ組合員中ヨリ選舉シ縣廳ノ認可ヲ受ク可シ

○農商工

第十五條 組合又ハ取締所役員ハ時々組合内ノ實況ヲ検査ス可シ  
 第十六條 組合員ハ組合ノ名稱ヲ以テ營利事業ヲナスコトヲ得ス  
 第十七條 組合員ハ組合及取締所ノ費用ヲ負擔スルノ義務アルモノトス  
 第十八條 組合員ハ必ス其組合ノ證券ヲ携帯ス可シ

但證券ニハ縣廳ノ檢印ヲ受ク可シ

第十九條 第一條ニ違背スルモノハ一日以上十日以内ノ拘留ニ處シ又金貳拾錢以上  
 壹圓九拾五錢以内ノ科料ニ處ス

○縣令第四十九號

明治二十三年九月十三日

明治二十三年(四月)法律第三十一號蹄鐵工免許規則第十二條ニ據リ蹄鐵工假免狀ヲ  
 得ント欲スルモノハ別紙書式ノ願書ニ履歷書ヲ添ヘ市町村長ノ與書ヲ得町村ニ於テ  
 ハ郡役所ヲ經テ縣廳ニ差出スヘシ但出張又ハ寄留地ニ於テ營業セントスルトキハ其  
 營業地市町村長ノ與書ヲ受クヘシ

書式

蹄鐵工假免狀下附願(用紙美濃紙正副二通)

住所(寄留又ハ出張者ハ本籍併記)

族籍

氏名

生年月日

私儀何郡(市)町(村)何番地ニ於テ蹄鐵工開業仕度候間假免狀御下附被成下度履歷書  
 相添此段奉願候也

年月日

氏名印

農商務大臣宛

市(町村)長與書印

○訓令第二十三號

明治二十三年九月十三日

郡市長

縣令第四十九號ニ依リ蹄鐵工假免許出願者アルトキハ左ノ事項ヲ取調ヘ本人ノ願書  
 ニ添付差出スヘシ

蹄鐵工假免許出願者調書

一營業區域 (何郡(市)一圓又ハ何郡(市)ノ内何々町村)

區域内地勢廣袤

同牛馬頭數

一營業年限 (資格ヲ有スル蹄鐵工充實迄ノ見込年限)

一調査事由 (本人開業出願區域内ハ蹄鐵工ニ乏シク開業蹄鐵工何某居住地何町(村)

ヨリ距離何里ニシテ交通不便假開業ヲ要スル等ノ理由若クハ營業區域  
 及年限ハ本人ノ申出ニ依ルト雖モ該區域内ニ蹄鐵工某ノ開業セルアル

○農商工



カ又ハ區域外ト雖モ某ノ開業地何町(村)ニ接近シ敢テ開業ヲ要セサル等ノ事由)

○訓令第十六號

明治二十四年三月十四日

郡市役所

明治十九年(十一月)訓示博覽會共進會開設規程中第二條第三條ヲ左ノ通更正シ第四條以下順次繰上ク

第二條 博覽會共進會等ヲ開設シタルトキハ閉會後十日限り左ノ書式ニ依リ該會ノ景况取調尙出品目錄(解說書式)及證狀又ハ褒狀寫ヲ添ヘ縣廳ヘ報告スヘシ  
報告書式

明治何年 何郡市町村 開設博覽會報告

會場地名 何市町村 又ハ有志 何郡村名

會名

會主

開場

褒賞授與式

閉場

出品區域

何郡市町村

又ハ有志

何郡村名

何博覽會何共進會ト記スヘシ(譬ヘハ水産博覽會 繭糸共進會ト云フカ如シ)其種類ニ制限ナキ者ハ單ニ博覽會物産會品評會ト記スヘシ

何郡市町村或ハ何會社又ハ何某

何月何日

何月何日

何郡市町村聯合或ハ何郡市町村

出品人員

出品員數

出品總價

出品種類

出品賣數

出品賣價總額

褒賞總人員

褒賞等級別

褒賞々與物件

來觀人員

通券價格

通券收額

會費總額

會費區別

本會景況云々

何人

若干

何圓錢

農業水産或ハ漆器織物等成ルヘク詳細ニ記スヘシ且農業水産ハ其物品名ヲ詳細ニ記スヘシ

若干

何圓錢

何人

一何人二何人三等何人褒狀何人追賞何人功勞賞何人協贊賞何人杯或ハ牌又ハ何物品或ハ金何圓(假令ハ一等何物品又ハ何何圓二等何々)等成ルヘク詳細ニ記スヘシ

何人

何錢(日曜日平日等ノ區別アルハ各別ニ記スヘシ)

何圓錢

何圓錢

何費何圓通券料何圓又ハ醜金義捐金等成ルヘク詳細ニ記スヘシ

何圓錢

本會景況云々

(譬ヘハ特殊發見ノ礦物或ハ有用動植物ノ近來生殖セル者或ハ漆器織物其他製作品ノ著シク改良進步セシ者或ハ從來其地ニナクシテ新ニ製作移植セシモノ或ハ輸

入品ニ代用スヘキ者或ハ將來輸出ノ目的アルモノ或ハ近年輸出ノ緒ニ就キシモノ等都テ工藝品農産物水産物ニ關シ會場ノ景况ハ勿論後來ニ希圖スル意見及一般人ノ意思傾向等成ルヘク詳密ニ記載シ且連年開設ノモノハ前年ノ比較ヲ揭ケ又民設ニ係ルモノハ其損益及保續ノ目的等ヲ詳細記載スヘシ  
右報告候也

年月日

郡市町村長又ハ何某

知事宛

參照

訓示

明治十九年十一月一日

第一條 郡市町村又ハ有志人民ニ於テ博覽會物産會名稱ノ如何ニ拘ハラヌ博覽會評會モ亦同シ及共進會品評會等ヲ開設セントスルトキハ開會二十日前規則書ヲ添ヘ縣廳ノ認可ヲ請フヘシ

第二條

第三條

第四條 審査及品評ノ項目ハ左ノ如シ

但物種ニ依リ項目ノ増減ヲ要スルトキハ審案ノ上其理由ヲ具シテ縣廳ノ認可ヲ受クヘシ

- 一 原 質
- 二 製 造
- 三 需 用
- 四 効 用
- 五 産 額
- 六 價 格
- 七 貯 藏
- 八 販 路
- 九 注 意

第五條 本會ニ要スル審査規程及褒賞授與ニ關スル例文又ハ内規等適宜編製ノ上縣廳ノ認可ヲ請フヘシ

第六條 審査員品評員ハ其住所姓名及本人ノ履歷大要ヲ具シ縣廳ノ認可ヲ請フヘシ但既定ノ後事故アリテ欠員ヲ生シ事急ヲ要スルトキハ臨時補員ヲ命スルヲ得ルト雖モ即時認可ノ手續ヲ爲スヘシ

第七條 郡市ノ開設ニ係ル會ハ審査ノ事務監督又ハ整理ノ爲メ審査長若クハ審査ノ監督トシテ縣官ノ派遣ヲ請フコトヲ得

但物産獎勵上格別ノ事情アルモノハ町村及有志ニ於テモ尙本文ニ依ルコトヲ得

○農商丁

第八條 郡市町村ノ開設ニ係ル博覽會共進會ノ褒賞ハ郡市長ノ記名ヲ以テシ若シ有志ノ開設ニ係ルトキハ其會名又ハ催主ノ記名ヲ以テスルヲ例トス

但郡市町村若クハ有志ノ開設ニ係ルモノト雖モ其規模稍ヤ大ナル場合ニ於テハ知事ノ名ヲ記シ褒賞授與アラシコトヲ請願スルヲ得

第九條 郡市町村又ハ有志ノ開設ニ係ル物産會品評會ノ褒賞ハ其郡市町村長又ハ有志ノ催主若クハ會名ヲ以テスルヲ例トス

但町村若クハ有志ノ開設ニ係ルモノト雖モ其事必要ト認ムル場合ニ於テ郡市長ノ名ヲ記シ褒賞授與アラシコトヲ請求スルコトヲ得

第十條 出品五十品以下ノ會ニ在テハ此規程ニ照據スルノ限リニアラス  
○縣令第三十八號 明治二十六年八月十五日

度量衡器取締規則左之通相定ム

度量衡器取締規則

第一條 度量衡製作修覆原器ハ濕氣少ナク溫度ノ劇變火災及塵埃ヲ避クヘキ場所ニ堅牢ナル臺ヲ据ヘ其ノ上ニ平置シテ保管スヘシ

第二條 度量衡器製作者及修覆者ハ其ノ製作若クハ修覆ニ不良ノ材料ヲ使用スヘカラス

第三條 度量衡販賣所ニ於テハ常ニ其ノ販賣品ニ差狂ヲ生シタルヤ否ヲ點檢シ其ノ

疑アルモノハ直チニ之レカ檢定ヲ請フヘシ

第四條 度量衡法施行規則第四十四條ノ屆書ニハ秤秤ノ物質記號年號及其ノ差狂ノ點ヲ詳記シ之レヲ縣廳ニ差出スヘシ

第五條 營業ノ目的ニ使用スル度量衡器ハ常ニ之レヲ掃除シ長サ重量容量等ニ増減ヲ生セシムヘカラス

第六條 度量衡器製作者修覆者及販賣者ハ前年四月ヨリ其ノ年三月ニ至ル一ケ年間ノ製作高修覆高(秤秤ノ取緒ノ修覆ヲナシタル箇數ト)販賣高及其ノ代價ヲ取調ヘ

毎年四月十五日マテ縣廳ニ報告スヘシ

第七條 度量衡器製作者修覆者及販賣者ハ帳簿ヲ製シ之レニ左ノ事項ヲ記載スヘシ

製作者ハ製作高(種類箇數)修覆高(種類箇數)販賣高(販賣人某ニ販賣シタル種類箇數)及代價

修覆者ハ修覆高(種類箇數)及修覆料

販賣者ハ販賣高(種類箇數)代價及仕入先ノ宿所姓名

第八條 度量衡器製作場修覆場販賣所又ハ營業ノ目的ニ使用スル度量衡器ハ検査官吏ヲシテ隨時之ニテ點檢シタルコトヲ行ヘシ

第八條 郡市町村ノ開設ニ係ル博覽會共進會ノ褒賞ハ郡市長ノ記名ヲ以テシ若シ有志ノ開設ニ係ルトキハ其會名又ハ催主ノ記名ヲ以テスルヲ例トス

但郡市町村若シハ有志ノ開設ニ係ルモノト雖モ其規模稍ヤ大ナル場合ニ於テハ知事ノ名ヲ記シ褒賞授與アラシコトヲ請願スルヲ得

第九條 郡市町村又ハ有志ノ開設ニ係ル物産會品評會ノ褒賞ハ其郡市町村長又ハ有志ノ催主若クハ會名ヲ以テスルヲ例トス

但町村若クハ有志ノ開設ニ係ルモノト雖モ其事必要ト認ムル場合ニ於テ郡市長ノ名ヲ記シ褒賞授與アラシコトヲ請求スルコトヲ得

第十條 出品五十品以下ノ會ニ在テハ此規程ニ照據スルノ限リニアラス  
○縣令第三十八號 明治二十六年八月十五日

度量衡器取締規則左之通相定ム

度量衡器取締規則

第一條 度量衡製作修覆原器ハ濕氣少ナク溫度ノ劇變火災及塵埃ヲ避クヘキ場所ニ堅牢ナル臺ヲ据ヘ其ノ上ニ平置シテ保管スヘシ

第二條 度量衡器製作者及修覆者ハ其ノ製作若クハ修覆ニ不良ノ材料ヲ使用スヘカラス

第三條 度量衡販賣所ニ於テハ常ニ其ノ販賣品ニ差狂ヲ生シタルヤ否ヲ點檢シ其ノ

疑アルモノハ直チニ之レカ檢定ヲ請フヘシ

第四條 度量衡法施行規則第四十四條ノ屆書ニハ秤秤ノ物質記號年號及其ノ差狂ノ點ヲ詳記シ之レヲ縣廳ニ差出スヘシ

第五條 營業ノ目的ニ使用スル度量衡器ハ常ニ之レヲ掃除シ長サ重量容量等ニ増減ヲ生セシムヘカラス

第六條 度量衡器製作者修覆者及販賣者ハ前年四月ヨリ其ノ年三月ニ至ル一ケ年間ノ製作高修覆高(秤秤ノ取緒ノ修覆ヲナシタル箇數ト)販賣高及其ノ代價ヲ取調ヘ毎年四月十五日マテ縣廳ニ報告スヘシ

第七條 度量衡器製作者修覆者及販賣者ハ帳簿ヲ製シ之レニ左ノ事項ヲ記載スヘシ  
製作者ハ製作高(種類箇數)修覆高(種類箇數修)販賣高(販賣人某ニ販賣シタル種類箇數)及代價  
修覆者ハ修覆高(種類箇數修)及修覆料  
販賣者ハ販賣高(種類箇數)代價及仕入先ノ宿所姓名

第八條 度量衡器製作場修覆場販賣所又ハ營業ノ目的ニ使用スル度量衡器ハ検査官吏ヲシテ隨時之ニテ檢査シシムルコトアレヘシ

第九條 度量衡検査官吏ニハ左ノ證票ヲ携帯セシム

三寸

二第 號

表 度量衡検査官吏ノ證

裏 割印

宮 城 縣

寸

○縣令第三十號

明治二十七年七月三十日

衡器製作者修覆者及販賣者ニ於テ桿秤ノ取緒及錘絲ニシテ金屬ニアラサルモノ、修覆ヲナシタルトキハ左ノ手續ヲ行フヘシ

一明治十六年一月以後ノ製作ニ係ル桿秤ニアリテハ其ノ大小ニ應シ相當ノ秤架ニ裝置シ錘ヲ直點及盛出シニ懸ケ之レニ相當スル分銅ヲ鈎又ハ皿ニ懸載シ其ノ都度平等ヲ得ルカ若クハ平等ヲ得サルモ一度目ノ二分ノ一ニ相當スル分銅ヲ増減シテ平等ヲ得ルカヲ檢シ然後一度目相當ノ分銅ヲ鈎又ハ皿ニ加ヘ感動ヲ起スカヲ檢スヘシ

一明治二十五年十二月以前ノ製作ニ係ル桿秤ニアリテハ真點ヲ檢シタル後各取緒ニ就テノ盛出シニ錘ヲ懸ケテ桿ノ水平ヲ得タルトキハ其取緒ニ就テノ一度目ニ相當

欠

MISSING

Faint, illegible text or markings, possibly bleed-through from the reverse side of the page. The markings are scattered and do not form any recognizable words or structures.







031398-001-3

CZ-1113-17-03

宮城県布令全書 第1-3卷

佐武 雄平 / 編

M28

BBD-0741

